

二 元禄十四年一月、十二月

(表紙欠損)

組下「」

一高百「」
(前谷村)
 □□□

此取□壺「」

一高六百貳拾貳石八斗三升「」
(笹岡村)
 □□□

此取八拾石九斗四升七合「」

一高四百七拾八石七斗三升
(宮谷村)
 □□□

此取百六石貳斗四升三合
(式ッ式分式厘カ)
 「」

一高六百三拾貳石四斗四升
(野木村)
 青□□□

此取百八石七斗四升壺合
(七分式厘カ)
 壺ッ「」

内

三百四拾四石三斗六升六合
 弥次兵(衛)□

此取五拾九石壺斗九升四合

百六拾七石九斗九升七合
 五十郎

此取貳拾八石八斗九升四合

百貳拾石七升七合
 九右衛門

此取貳拾石六斗五升三合

一高五拾四石五斗五升
 西方寺村

此取貳石四斗五升三合
 四分五厘

一高百七拾貳石四斗壺升
 清王村

此取三拾九石七升六合
 式ッ式分七厘

一高貳百九拾四石六升九合
 赤尾村

此取三拾七石三斗三升三合
 壺ッ式分七厘

一高百貳拾四石五斗壺升
 横垣村

此取拾四石九斗貳升貳合
 壺ッ式分

一高七百拾八石七斗四升
 井江葭村

此取百三拾貳石九斗貳升六合
 壺ッ八分五厘

一高三百九拾七石四斗
 国影村

此取六拾八石三斗壺升八合
 壺ッ七分式厘

一高貳百三拾七石七斗壺升
 牛山村

此取三拾貳石六升九合
 壺ッ三分五厘

一高百貳拾五石八斗
 城村

此取拾石六斗九升三合
 八分五厘

一高六石四斗九合
 同新家

此取貳斗八升八合
 四分五厘

一高百九拾九石六斗七升
 西谷村

此取八石九斗七升八合
 四分五厘

一高七百九石七斗四升八合
 舟津村

此取百貳拾七石貳斗七升壺合
 壺ッ七分九厘三毛
 有壺ッ九分五厘

一高七百六拾九石九斗五升
 十楽村

此取拾七石七斗五合
 式分三厘

一 高九百貳拾貳石八斗五升

田中々村

此取拾三石八斗三升八合

壹分五厘

一 高七百拾石貳升

番田村

取なし

一 高七百壹石五斗

重義村

取なし

高合八千拾八石六斗四合

此取八百拾三石六斗三升「」

元禄十四年 辛巳年

正月朔日

一 去十二月十四日辰年納庄屋「」

「自江戸罷帰候ニ付渡辺団

「」状巻通、上田嶋壹端被遣被下候「」

「」今朝相届

候を請取申候、并直介方々木綿織足袋壹足参を請取申候

同 二日

同 三日

同 四日

同 五日

一 友左衛門様御暇出申由、鯖江彦五郎方々飛脚ニ而舟寄迄申越候由

ニ而、書状後山々此方へ参候

同 六日

一 右友左衛門様為御見廻と権右衛門鯖江書状指添遣し申候、并諸道具ニ而も御かた付御用も可有之哉と申、源八も遣し申候、乍序御役人様方へ年始之御礼申上候

同 七日

同 八日

一 権右衛門・源八罷帰り候、友左衛門様々御返事被遣候、明九日ニ彦五郎方々御移り被成候而、十三日ニ福居へ御引越被成度御事ニ候

一 申渡御用之義有之間来十三日四ツ時陣屋へ可被参候、被致不参間敷候

巳正月五日

中野元右衛門 印

斎藤久野右衛門 印

杉山織右衛門 印

青山 藤 介 印

前合村与頭
二郎左衛門殿

此書付可被相返候

一 小木友左衛門義御暇被成候条為知を申遣候、与下村々へ申聞滞義も有之候ハ、申出候様ニ可被申付候、以上

中野元右衛門 印

斎藤久野右衛門 印

巳正月五日

杉山織右衛門印

青山藤介印

前谷村与頭

二郎左衛門殿

追而右之趣村々被致吟味、滯義無之候ハ、其段書物判形被致可
被指越候、以上

一友左衛門様御暇出申二付、滯義有之候ハ、可申上候、申分も無之
候ハ、判形被致候様ニと村々証文書之遣し申候

正月九日

同十日

一 国影村茂左衛門・次左衛門・新右衛門参候ニ付、年内其村弥左衛
門申来り候ハ、質物ニ長百姓中へ入置申高当年切ニ候得共、請出
し申事成不申候間、然上ハ向後弥四人之衆目をかけ被下候様被仰
付可被下候由弥左衛門願ニ候間、少宛之目をかけ被申候様ニと三
人へ委敷申聞候

同十一日

一 友左衛門義ニ付何之滯申義無「」庄屋長百姓判形いたし証
「」持参□□請取申候、右証「」
一 舟津村清右衛門当已之春「」被仰付「」と願状指
「」

(十)
同□二日

(十三日)
同□□□

一 御代官所惣「」寄年内江戸へ被遣候「」一段々被仰渡
候ハ御代官「」百姓平生之身持悪敷候ニ付、逐年困窮之由
申立候義不届ニ候間、向後百姓農業能相勤、其外少分之費も無之
様ニ可仕候、郡々と頭共屯所ニ寄合与切ニ村々庄屋長百姓与頭方
へ呼寄、右之御書付能読聞せ、其上口上を以委細申聞せ、御書付
写ニ庄屋長百姓判形可取□、事ニ村々百姓之内身持悪敷者为吟味
候間、庄屋長百姓其一村之目付ニ相定、証文判形取立可申由委細
被仰聞承知仕候

一 卯年割方帳相改、年内指上候へハ口張仕指上候様ニと被仰越候ニ
付、口張仕今日指上申候、割方存寄之段々申上候

同十四日

一 年内相改指上候卯年割方之義ニ付、從江戸上乘矢地村七郎兵衛ニ
御書付被遣候ニ付、いつも与頭共御陣屋へ被召寄、指上置候卯
年割方帳を以与頭給高割・屋割之訳、并庄屋給・定遣給割方之次
第、村別ニ書付指上候様ニと被仰付候
一 坂井郡三組共ニ織右衛門様御支配之由被仰渡候
一 毎月五日・十九日公事日御定ニ候間、其日ニ公事人御陣屋へ訴候
様ニと被仰渡候
一 巳年御廻米上乘願状、重義村六兵衛・舟津村清右衛門式通織右衛

門様へ指上候

同十五日

一昨日被仰付候庄屋給・定遣給相改申二付、何れも与頭中逗留二候
一辰年郡中惣割方帳相改申義二付而、有定喜右衛門・舟枝村十兵衛
・赤坂村宗五郎右三人を昨十四日^〆鯖江へ呼寄候而為相改申候、
此入用八重而郡中惣割二可仕事

正月十六日

卯年中郡中惣割元帳銀高之覺

一銀四貫八百貳拾五匁六分五厘

是ハ御用人馬代、御陣屋屋根^(葺カ)日替・垣入用、所々飛脚賃、

国絵図入用、西鯖江村清兵衛并門番・牢番給、牢屋入用共二

郡中立合割符仕候

一銀四百五拾貳匁八分五厘

鯖江^〆所々へ被遣候人足賃銀

一銀貳貫七百拾壹匁八分

水夫給割合之時食代

惣銀合七貫九百九拾匁三分

此割高七万九百九拾壹石七斗八升貳合八勺

但高千石二付百拾貳匁五分五厘貳毛

銀壹貫貳百貳拾四匁三分五厘 戸口組

此高壹万八百七拾八石六升壹合

銀百拾三匁貳分壹厘

松ヶ谷組

此高千五石八斗三升三合

銀壹貫三匁五分六厘

下新庄組

此高八千九百拾五石三斗壹升五合

銀壹貫百拾六匁三分九厘

此高九千九百拾九石「」

(數行欠損)

此高七千六百貳拾石「」

銀九百貳拾七匁四分

此高八千貳百三拾九石貳斗五合

銀九百貳匁四分八厘

前谷組

此高八千拾八石六斗四合

ノ

右者当卯年中御用人馬銘々小日記を以拙者共立合吟味仕候、少も

相違無御座候付此帳面二書載割符仕候、以上

元禄十二年

卯十二月

与頭不殘
立合人 判二而指上候

右卯年中割帳此度相改、指上申候帳面寄之面如此二候

同十七日

一右之御用共今日迄二仕廻申候

一金子兩替直段之御書付被遣候、村々庄屋長百姓判形為仕重而御陣

屋可指上事

一 右卯年諸役頭付仕指上候処此度江戸^ゝ被仰越候ハ、与頭給^ゝ人何程取哉、高割・屋割之^ゝ、庄屋給^ゝ何程取候哉、高割・屋割之^ゝ、定遣給^ゝも右同断、右之内稗六斗五升新家ニ有之候^ゝ直段何程ニ而取候哉、方々渡守賃之内麦・大豆有之候、是も直段直段^(符)、何程ニ而取候哉と御尋ニ付、与頭給^ゝ銘々取候分、庄屋給^ゝ定遣給^ゝ村々相改書付指上候、右稗・麦・大豆之事直段無之直ニ請取候由書付指上候、次ニ村々帳かミ代之内ニ米有之候を是も銀ニ而取候哉米ニ而取候哉御尋候^ゝ、式斗式升赤尾村有之候を改出し書[□]指上候

一 銀九百貳匁四分八厘 郡中惣割前谷

高百石ニ拾壹匁貳分五厘五毛余

内

五百四拾五匁四厘 人馬代御陣屋入用

高百石ニ六匁七分九厘七毛五

五拾壹匁分四厘 御用ニ被遣候人足代

高百石ニ六分三厘八毛内

三百六匁三分 食代水夫給

高百石ニ三匁八分貳厘

右之通ニ候、此分割元帳可仕候

正月十八日

一 鯖江^ゝ罷歸舟寄善右衛門ニ泊り申候

同十九日

一 舟寄組庄屋長百姓呼寄候而、此度被仰越候段々平介・自分立合申渡し候、舟寄^ゝ罷歸り候

同二十日

同廿一日

一 牛山村八兵衛参出入之事申ニ付申渡候ハ、何とぞ噯ニ而下ニ而相濟申様ニと年内^ゝ近所庄屋長百姓噯被申候、当春ニ成いまた扱之相談も無之候、我等義当十二日^ゝ鯖江へ御用ニ参一昨日罷歸「

「御用有之ニ付証文等「」」

(数行欠損)

上様も無御座候^(間カ)、何とそ是ニ而相濟くれ候様ニと申八兵衛罷歸り候

正月廿二日

同廿三日

一 後山平助・舟寄庄右衛門立合、与下村々庄屋・長百姓・五人頭呼寄、江戸^ゝ被仰越候御書付為読聞段々慥ニ申聞、庄屋長百姓其一村之目付ニ被仰付候ニ付証文判形為致候、并兼而被仰付候博奕弥堅御法度之証文、金銀両替之証文、江戸被遣候御書付承知仕候由、

判形以上四通二村々庄屋長百姓判形取申候、右四通共ニ留書有

一宗旨御改下帳二月十日迄ニ持参候様ニと申渡し候

一当春御廻米之割参候而米拵仕度村々ハ此方へ断可有候、蔵封を切渡可申由申渡し候

一新家吉太夫、年内廿日過(聖寺)大正持ニ奉公仕由ニ而罷出候得共、大

正持ニ不罷有候由此頃相知候ニ付、方々相尋候得共行方知不申候、然処宿ニ書置を仕置候を此中見付出し候へハ、津軽へ参候との書置ニ御座候由庄屋又左衛門断ニ付、吟味之上庄屋長百姓口上書を指上候ニ付、明後廿五日ニ鯖江織右衛門様へ指上候様ニと申渡し候、留書有

同廿四日

一後山与下村々今日呼□□□付、我等も後山へ参右之段々立合申渡し候

一舟寄善右衛門方(鯖)便り□江へ有之候由被申越候ニ付、庄屋長百姓目付ニ被仰付候証文壹通、兼而被仰付候博奕御法度之証文壹通、金銀両替証文壹通、以上三通織右衛門様迄指上申度由ニ而庄右衛門ニ遣し申候

正月廿五日

同廿六日

同廿七日

一新家又左衛門・同村吉太夫義ニ付書付鯖江へ持参仕候へハ、文談少悪敷所有之ニ付御返し被成候故、書直シ判形仕重而持参候様ニと申付候、右之書付持参ニ付鯖江へ指上申候

同廿八日

同廿九日

同晦日

二月朔日

覚

本石八石八斗四合
一米貳拾三俵

前谷村

一銀貳拾六匁四分壹厘
本石六拾壹石貳斗四升四合
一米百六拾俵

笹岡村

一銀百八拾三匁七分三厘
本石八拾石三斗八升三合
一米貳百拾俵

宮谷村

一銀貳百四拾(壹カ)匁壹分五厘
本石八拾貳石貳斗九升七合
一米貳百拾五俵

青野木村

一銀貳百四拾六匁八分九厘

内

本石四拾四石八斗壹升壹合
米百拾七俵貳升七合

弥次兵衛

銀百三拾四匁四分三厘
本石貳拾壹石八斗六升壹合
米五拾七俵四升五合

五十郎

銀六拾五匁五分八厘

本石拾五石六斗貳升五合 米四拾俵三斗貳升八合	九右衛門
銀四拾六匁八分八厘 本石貳拾九石四斗七升四合 一米七拾七俵	清王村
一銀八拾八匁四分貳厘 本石壹石九斗壹升四合 一米五俵	西方寺村
一銀五匁七分四厘 本石貳拾八石三斗貳升五合 一米七拾四俵	赤尾村
一銀八拾四匁九分八厘 本石拾壹石四斗八升三合 一米三拾俵	横垣村
一銀三拾四匁四分五厘 本石百石六斗七升 一米貳百六拾三俵	井江葭村
一銀三百貳匁壹厘 本石五拾壹石六斗七升五合 一米百三拾五俵	国影村
一銀百五拾五匁三厘 本石貳拾四石壹斗壹升五合 一米六拾三俵	牛山村
一銀七拾貳匁三分五厘 本石九拾六石四斗五升八合 一米貳百五拾貳俵	舟津村
一銀貳百八拾九匁三分七厘 本石六石八斗九升 一米拾八俵	西谷村
一銀貳拾匁六分七厘 本石拾三石三斗九升七合 一米三拾五俵	十楽村
一銀四拾匁壹分九厘	

本石拾石三斗三升五合 一米貳拾七俵	田中々村
一銀三拾壹匁 本石六百七石四斗六升四合 合千五百八拾七俵	
合銀壹貫八百貳拾貳匁三分九厘	
此金三拾兩壹分銀七匁三分九厘	
右村々去辰御年貢米之内当已之□□江戸廻米割如此二候、如例□ ^(年) 米カ □拵縄俵等入念仕立可申候、雪消次第津出シ可申付候間、油断無 之様二急度可申□□、且又廻米入用先割銀壹石二付三匁宛積り取 立、二月可被相納候	
巳 正月廿□日	斎藤久野右衛門 印
	中野元右衛門 印
	杉山織右衛門 印
	青山 藤 助 印
前谷村与頭 次郎左衛門殿	
此書付順々廻シ留村可被相返候、以上	
二月二日	
同三日	
右之御廻米御書付添書いたし西谷村五郎右衛門二相渡し、夫可 順々相廻申筈二候	
同四日	

同五日

同六日

一御廻米御廻状村々廻り返り申候

同七日

一牛山村八兵衛・次郎右衛門出入山江、次郎右衛門方も立入木を大分切取申候間、出入落着迄双方も立入不申候様ニ被仰付被下候様ニと八兵衛方も願申二付、右出入落居迄ハ山へ立入木を切申事無用之由次郎右衛門方へ申遣し候、就夫二郎右衛門方も薪二切申由断二付、然上ハ年内罷出候扱中へ申遣し罷出扱可申由申渡し候一番田村久左衛門持高金子貸申者共、立合割分申由久左衛門断申二付、高散田ニ仕候二付而ハ庄屋又左衛門方□断可有候処、何之断も無之候へハ割分申義不明分ニ存候、重而又左衛門方も断有之候ハ、其節之事ニ可仕と申候

二月八日

一国影村次右衛門・藤兵衛、井江葭村次郎右衛門・義右衛門同道ニ而牛山村へ参、庄屋次兵衛・長百姓・茂左衛門・権右衛門・宗左衛門相談之上、右二郎右衛門・八兵衛双方へ申候ハ、山割之義我々扱之者共相談之上山割渡可申候間、山割之義如何様共扱人ニ任せ被申候様ニと色々双方へ異見申候得ハ、兩人共ニ山割之事如何様共扱之衆中指図之通少ももれ申間敷と申二付、其段証文を取申候

同九日

一右兩人山割之義、扱之者共指図之通違背申間敷との証文取候二付、扱之者共相談仕候ハ、八兵衛方も高・山共ニ三ツ割ニ仕、壹分八兵衛取分、壹分次郎右衛門取分、壹分者甥取分之由ニ候へ共、母存生之内ハ為養之高ハ四ツ割ニ仕、壹分取候而拾五年以前ニ世帯ニ出申候、山ハ割分不申、落葉・下莉共ニ立合四ツ割ニ仕取来申候、然共只今者先年定之通高・山共ニ三ツ割仕取可申と申出候ニ付扱人申候ハ、三ツ割ニ仕取可申筈之親遺言状有之候哉、又母相果候ハ、三ツ割ニ可仕との次郎右衛門証文有之候哉□相尋候へ共、証拠無之口上迄之義ニ有之候故、□□年以前ニ四ツ割ニ仕只今迄持来り候処、今度山割之申分□候とて高□割直し可申との事難心得候、其上三ツ割仕候□□兄ニ弟と面屋分之訳も無之、母も于今存生ニ候へハ、高四ツ割ニ候へハ山者四ツ半ニ割候て、半ハ面屋分、壹分ハ甥取分、貳分次郎右衛門分、壹分ハ八兵衛分相定、所々之山四ツ半組合鬭取ニ可仕「□」山見積り組合被申候様ニと相談相極帰申候

一鹿毛四歳馬壹疋、持主□□村九右衛門、昨八日之暮ニ落申由庄屋長百姓証文出し申候

同十日

同十一日

一村々郷藏納米之封を切御廻米拵仕度由断二付、権右衛門村々へ罷出候

一笹岡村称運寺被参候而、伊兵衛方^〆取置候質高之義何角と被申二付、村二而相済不申事二候ハ、重而庄屋長百姓同道二而御出候様ニと申渡し候、就夫去年^〆出入二取組候与三右衛門山へ与三右衛門立入木柴切取申候間、双方^〆立入不申候様ニ申付くれ候様ニと被申二付、出入落居迄ハ双方共二山立入申事無用之由宗左衛門方へ配符遣し申候、右伊兵衛高之義、年内押詰ニ称運寺被参候て、去卯四月類火ニ高質物証文焼失仕候二付返り証文相渡し可申候間、右之代金四両貳分式朱返済候而高請出申様ニと申候得共、証文焼失仕候二付代金相渡不申候段被申二付、其義庄屋長百姓右之判人共へ御断被成候ハ、埒明可申事二候間、庄屋長百姓共と御相談候様ニと申談候、当春笹岡村庄屋長百姓へ称運寺年内御断被成候、其義埒明候哉と相尋候得ハ何れも被申候ハ、年内十月二伊兵衛右之代金調高請出し可申と申候へハ称運寺被申候ハ、右之証文此頃迄所持仕候処置所を念候間^(失脱カ)尋可申由被申二付、大切成証文指置代金を相渡申事難成候と申、代金ハ封付二而庄や方へ預ケ置申候、其以後証文之義伊兵衛方^〆度々相尋候得共見へ不申由被申二付其通二仕候、然処大晦日ニ称運寺^〆我々方へ使二而被申越候ハ、伊兵衛高今日迄請出し不申候故ハ、流高二成候間其心得可仕と被申越候二付、此高之義右^〆段々訳候而伊兵衛も只今迄相尋候処難心得使二候得共、今日之事二候へハ何と吟味可仕様も無之候、春中

吟味可有事と返事申遣候、然処与頭へ被参候而証文焼失と被申候事相違之事二候、終我々方へ焼失とハ不被申候と何も申聞候、庄屋長百姓之申口と貴寺之御口上とハ格別之相違二候、其上庄屋長百姓も同心無之訴状持参之由何共難心得候、村二而とくと詮義を請、庄屋同道二而重而訴状御持参候様ニと称運寺へ申談候

二月十二日

一柿原十楽村又右衛門、青野木村分持高拾壹石余拾ヶ年斗以前二新屋惣兵衛方へ売渡し申二付、只今右之高又右衛門方へもらひ申度候間、右代金之内少不足二而又右衛門二高とらせ被申候様ニと申談候得共、高之義ハ少之事二候へハ如何様共相談可仕候得共、代金不足之義ハ成申間敷と惣兵衛申候

同十三日

一牛山村次郎右衛門・八兵衛出入之義、国影村次右衛門・藤兵衛を呼出シ承候へハ右兩人被申候ハ、昨十二日二井江葭村二郎右衛門・義右衛門・牛山村庄屋長百姓・我々罷出扱二而、八兵衛持高ハ割分之通、山之義ハ四ツ半ニ割、壹分ハ八兵衛取分、壹分ハ喜右衛門取分、貳分半二郎右衛門分、山手銀貳匁貳分年々八兵衛方^〆上納仕筈ニ相極、山々所々右之者共立合見分二而組合、四ツ半ニ鬭取紙「一」双方立合鬭取二仕相済申候、扱去年二郎右衛門方^(買カ)〆売取申候木山代金六両三分之内壹両貳分銀拾壹匁八兵衛方へ相

渡し、出入済証文重而双方へ取かハさせ可申由双方納得ニ而相済、則中直り迄為致候と右兩人被申二付、一段之義何れも被入情候故相済珍重之□□候

同十四日

(石田代官)

一馬場源兵衛様御代官所坂井郡中庄村百姓九郎兵衛と申者非分之出入訴出候二付、御吟味之上田地家財御上ケ、九郎兵衛義国追放□^(被)仰付候間、若此方御代官所へ参候共一切立寄せ申間敷候、為其如此二候、以上

二月十一日

斎藤久野右衛門 印

(右衛門 印)

中野元「」

杉山織右衛門 印

青山 藤 介 印

前谷村与頭

二郎左衛門殿

此書付可相返候

覚

一当春廻米之義忝俵二四斗忝升五合入、□^(但カ)かがり去年之通茶かがり二致置入念候様ニ可被申付候

一津出候義米出来次第来月初ハ三国湊へ出候様ニ可被申付候、尤米出来候ハ、近日案内可被申越候

一辰年諸役割帳案紙指越候間、入念村々江可被申付候、但卯廻米有之村ハ、納庄屋江戸ハ罷帰次第廻米入用追而可申遣候間、書入さ

せ可申候、其外之入用先下帳ニ仕組忝ケ村指越見せ可被申候、金納之村々ハ早速出来候様ニ可被申付候

一宗旨改帳并辰之名寄帳之義、四月十五日限指出可被申候、例年遲指出候段不宜候、若右之日限及遲滞候ハ、与頭可為不念、此書付留り村ハ可被相返候、以上

巳二月十二日

斎藤久野右衛門 印

中野元右衛門 印

杉山織右衛門 印

青山 藤 介 印

坂井郡

与頭中

右之御書付後山へ遣し申候

同十五日

同十六日

一牛山村伊兵衛参候而申聞候者、今度之出入之義御扱之趣不残致承知候、然共母養之義十五年以來八兵衛出し不申候間、忝ケ年二米忝俵宛出し申様ニ被仰付候様ニと申二付而、母養分二忝ケ年二米忝俵宛出し可申との八兵衛証文有之候哉、其上拾五年之間何とて取不被申候而此度被申出候哉と相尋候へハ証文ハ無之候、十ケ年斗以前二山売候而五年分取候へとも、其以後十ケ年分取不申候と申二付、八兵衛方ハ高・山共二三ケ忝取可申事ニ候得共、二郎右衛門方ニ母指置候ニ付四ケ忝取申由申候得共、是ニも三ケ忝取可

申筈之証拠も無之候二付、今迄之通高・山共四ヶ壺取分、母養之義も今迄取不申事二候ハ、其通二仕、此度山割分申上ハ、以来之義相定取可申との事二候ハ、何様ニも相談可有候得共、十ヶ年之間組立候而取可申との事二候ヘハ、八兵衛つふれニ罷成候、左様ニ御百姓つふし申扱ハ成不申候間、堪忍被致置候様ニ存候と申候

二月十七日

一城村引網之義、村中相談之上大網船壹艘立候由庄屋長百姓被申来候

同十八日

一井江葎村二郎右衛門・義右衛門御廻米之義ニ付被参候付、右牛山村伊兵衛申口自分申聞様段々物語いたし、乍此上重而又二郎右衛門異見被致、何とそ右扱之通相済被申候様ニと委細申入候

同十九日

一牛山村伊兵衛参候而右之段申候ニ付、昨日井江葎村二郎右衛門・義右衛門段々申入候間、其上ニ而相済不申候ハ、八兵衛ニ申聞、いか様共八兵衛所存次第二可仕候、大分之米ニ候処此方何と訳立可申様も無之、八兵衛をつふし申事も難成候と申聞候

一笹岡村称運寺被参候而右伊兵衛□高出入之事宗左衛門ニ申入候得共、相談も不仕訴状取次くれ候様ニと申候得共、何角と延引「

「訴状持参之由被申ニ付下ニ而埒明不申、宗左衛門訴状も取次申事成間敷と申切候ハ、其節此方へ御断可有候、宗左衛門「
「とも申切不申、何角と思案「
「仕候内、及延引ニ申候とて此方へ訴状御持参之義何共難心得、宗左衛門然と御聞切候而重而「
「様ニと申候

一城村二郎右衛門方新嘉吉太夫ニ貸方有之候処、右之吉太夫津輕へ参候ニ付書入「
「被申ニ付、吉太夫貸方方々大「
「而書付を残し置候処、池上村十右衛門・三郎兵衛、下番村与三右衛門方も断有之候得共、庄屋「
「判も無之候ヘハ、此方何と指図も難成候間、貸方之者共相談之上此方へ断有之様ニと申渡し候ヘハ、其方壺人へ書入候物、取被申候様ニとハ申かたく候、其内新家又左衛門ニも様子相談可仕と申候

同廿日

一平助方被申越候ハ、此中鯖江へ参夕へ帰り候、最前被遣候辰諸役割帳案紙ニ少違申事有之ニ付、追付御直シ被遊可被遣由被仰越候間、其心得可仕候由申越候

同廿一日

一笹岡村宗左衛門参候ニ付、称運寺度々被参候而伊兵衛高之事何角と被申候間、吟味之上質物証文焼失ニ紛無之候ハ、称運寺へ返り証文を取相済候様ニ被致置之由申談候

同廿二日

同廿三日

同廿四日

同廿五日

一牛山村権右衛門参断り申候ハ、此度次右衛門方の弟八兵衛ニ母養代之義、拾年之間ニ壹ケ年ニ米壹俵宛取可申と申候へ共、横垣村次右衛門、井江葭村次郎右衛門・義右衛門、国影村次右衛門・藤兵衛・茂左衛門、牛山村ニ而次兵衛・茂左衛門・宗左衛門・権右衛門、何れも罷出段々承候処二郎右衛門申分非義ニ候故、何も扱として母養之義先年之通取遣りなし出入相済申二付、右扱ニ罷出候衆中として断ニ権右衛門被指越候由様子承候、双方共ニ此出入ニ付残り申道理も有之候哉、若扱之義無理成事も有之様ニ被存候ハ、早々罷出可被申候、取次可申由兩人へ能々断被申候様ニと扱中へ手紙遣し申候

二月廿六日

一田中々村才兵衛方の金三両預り候て、則預り手形才兵衛方へ相渡し置候、此金子才兵衛方へ返し預り手形消申候

同廿七日

同廿八日

一笹岡村称運寺御陣屋直ニ書付指上候付、相手伊兵衛御陣屋へ被召寄返答被仰付候由、伊兵衛断ニ参候

覚

一米五百三拾俵

前谷組

右者当春江戸廻米積船於大坂ニ正月下旬ニ御改を請、彼地出船

「三国湊江（着力）□津可仕旨江戸の船送り状令到来候、依之舟積為御用来ル晦日中野元右衛門三国江罷越候、今年ハから船ニ而入津

「□」筈ニ候、村々廻米百姓心まかせニ令津出シ舟積延引不宜候、俵数□之通先早々仕立させ、三月七日迄ニ三国町藏へ納候様ニ可被申付候、若右日限之通津出し於無之ニハ与頭庄屋可為不届□、其上江戸へ申上候条毛頭遲滞有間敷候、相残廻米も追々津出し可申付候、中札之義三国ニ而入可申候間可被得其意候、以上

巳二月廿八日

中野元右衛門 印

斎藤久野右衛門 印

杉山織右衛門 印

青山 藤 介 印

前谷村与頭二郎左衛門殿

右之書付留りの重而中野元右衛門方へ可被返候

追而当月廿五日の沖之口留候由福居の申来候条、組下村々へ可被申触候、以上

右之御廻状舟寄の参候ニ付後山へ遣し候

覚

(元禄8、11年舟寄代官)
宍倉与兵衛元御代官所

越前国柿原村

無宿 善七

右之者之伯父油屋弥左衛門と申柿原村百姓ニ而罷有候由

二月

覚

一 宍倉与兵衛様元御代官所柿原村善七と申者、於江戸宿なしニ罷成候由、別紙書付江戸へ参候ニ付為心得写遣し候、若柿原西方寺村之者ニ有之候哉、又ハ清王村之者ニ而候哉、早々聞届可申旨委細御書付別紙ニ有

二月廿九日

一 右之通御書付被遣候ニ付、清王村参候て西方寺村共ニ吟味仕候得共、右両村ニ江戸へ参候善七と申者無之候ニ付、両村庄屋長百姓口上書を取、書状指添候而御陣屋へ清王村人足ニ遣し申候、右之善七義柿原十楽村之者ニ而、石田へ御尋ニ付十楽村油屋弥左衛門・庄屋共石田へ参候由御陣屋へ申上候

三月朔日

一 右之善七西方寺村・清王村之者ニ而無之候ニ付、両村へ書付を取清王村人足ニ鯖江為持指上候
一 村々今日中札かミ相渡御米之義段々申渡候

同二日

一 鯖江へ善七義申上候へハ藤助様へ御返事被遣有之候、并舟津村火事人共之百姓仕立ニ成兼候由申上候へハ、上米与かいかけさせ申様ニと被仰越候

一 十楽村川除置堤大分切申由願ニ付罷越見申候

一 中野元右衛門様一昨朔日ニ三国へ御越被成候付、諸事為窺三国へ参候

同三日

同四日

一 十楽村水囲堤長拾五間切申ニ付、其段口上書を取庄屋与三右衛門ニ為持遣し申候、

一 重義村六兵衛・舟津村清右衛門上乘願之事申上候へハ六兵衛義相極候、清右衛門義ハ鬪取ニ而極申答ニ候間重而可被仰越由織右衛門様へ被仰越候

一 笹岡村勝運寺出入明五日「」へ返答書可指上候間、此出入質高之義ハ当分村支配ニ被仰付、出入落着之義ハ当秋中殿様御入被遊被仰付候間、質高村支配ニ仕候様ニと被仰付、双方□御返し被下候ハ、此方ニ而相済可申由申上候、其外称運寺伊兵衛此出入之始終不残書状ニ而織右衛門様「」

同五日

一 笹岡村伊兵衛返答書今日鯖江へ持参申二付、伊兵衛并宗左衛門・宗兵衛・宗右衛門口書を取、織右衛門様迄指上申候

一 十楽村与三右衛門鯖江へ参罷帰候、御普請所之義御帳ノ候へハ当年之御普請所御仕組ニハ難被成候間、百姓自分普請ニ成共仕候ハ、来年御仕組ニ被成可被下由、与三右衛門ニ被仰越候

同六日

一 御米中札村々ノ取集候而、御判取ニ鯖江へ源八遣し申候

同七日

一 質物書入高百石

此代米六石八斗四升、京升

右ハ借主南金津米屋太郎左衛門、借主国影村庄屋長百姓、当已十月切利足四割、自分添判いたし候

一 新家吉太夫去暮欠落仕候処、城村二郎右衛門貸方有之由ニ而書付指上候を請取置申候

已春御廻米中札之覚

一 式拾三枚

前谷村

一 百六拾枚

笹岡村

一 式百拾枚

宮谷村

一 五枚

西方寺村

一 七拾四枚

赤尾村

一 三拾枚

横垣村

一 式百六拾壹枚

井江葭村

一 百三拾五枚

国影村

一 六拾三枚

牛山村

一 式百四拾八枚

舟津村

一 拾八枚

西谷村

一 三拾五枚

十楽村

一 式拾七枚

田中々村

ノ千式百八拾九枚

右之通中札杉山織右衛門様御印形相済、舟積御役人様中野元右衛門様へ御封し候て被遣候を請取、源八今八日ニ罷帰り候

一 中札百拾七枚

青野木村弥次兵衛

内 百拾五枚
式枚

御印形相済
不足有

一 同四拾壹枚

同村九右衛門不足

一 同五拾七枚

同村五十郎不足

一 同七拾七枚

清王村不足

一 同式枚

井江葭村不足

一 同四枚

舟津村不足

ノ式百九十八まい

右之通札書様悪敷候ニ付御印形相済不申候

三月八日

一中札右之通ニ而源八鯖江へ罷歸り候

候

一笹岡村称運寺・伊兵衛出入之義ニ付、右之両人庄屋長百姓鯖江へ

五日ニ参候処、右之^(高)質物証文焼失紛無之由称運寺申上候ニ付、

称運寺ニ返り証文仕^(相渡)□□代金伊兵衛方へ相済「」出し□申様

ニと被仰付、昨七日ニ罷歸候由伊兵衛申来り候

同九日

同十四日

一村々御米之吟味ニ源八村々へ遣し申候

一鯖江へ遣し申候中札御印形相済候而昨日罷歸候ニ付、元右衛門様へ指上申候

同十日

同十五日

一中札千式百八拾九枚拾三包三国へ遣し中野元右衛門様へ指上候、前谷村人足ニ而、残而式百九拾八枚

一清王村庄左衛門後家持高を同村権兵衛□預ヶ置申候、委細ハ次兵

衛・久右衛門・新兵衛能存知申由申来り候ニ付、右三人并九右衛門・助左衛門方へ様子聞届相済候様ニと申遣し候

一新年吉太夫借物之義ニ付城村二郎右衛門書付指上候ニ付、新家又左衛門二様子申聞候得ハ、下ニ而相済可申様無之由又左衛門申ニ付、其旨口上書を取申候

一源八村々廻り、御米十二日三日ニ三国へ出し可申由ニ而罷歸り候

一卯年割方之義ニ付御用之義候間、明十六日ニ鯖江へ参候様ニと被仰下候、我等義足痛申ニ付其段御断申権右衛門を遣申候

同十一日

三月十六日

一村々相残候中札取集申候

一城村次郎右衛門訴状并新家又左衛門口書共二郎右衛門ニ為持、織右衛門様迄指上申候

同十二日

同十七日

一中札式百九拾八枚、青野木村五十郎組之人足ニ為持鯖江へ遣し申

指上申一札之事

一高四石

坂井郡横垣村

弥右衛門

年五十四

女房

年四十五

娘はつ

年廿壹

同いわ

年十八

男子坊

年十三

右弥右衛門義前々ゑ身代不罷成候二付、此度江戸へ日用かせき二罷下り度旨奉願候、持高・女房子共之義ハ同村次右衛門ニ預ケ置申候、江戸へ罷越候へハ松川町大屋米屋勘兵衛店橋屋六兵衛と申者之方へ参候、此者二付先様ニ而如何様之悪事出来候共拙者共埒明可申候、尤右弥右衛門ニ御用之義御座候ハ、何時成共呼寄可申候間、願之通被仰付可被下候、以上

元禄十四年巳三月

横垣村本人

弥右衛門

同庄屋

次右衛門

同長百姓

善右衛門

同

七郎兵衛

(古郡年明・鯖江代官)
古郡文右衛門様

御手代衆中

右横垣村弥右衛門かせきとして江戸へ罷越候段、拙者吟味仕候処相違御座無候、以上

前谷村与頭

次郎左衛門

右之通之書付右弥右衛門鯖江へ指上候様ニと申渡し遣し候

同十八日

一城村次郎右衛門、新家吉太夫方へ貸方之義ニ付書付并新家庄屋又左衛門口上書指上申二付、右之式通共ニ次郎右衛門鯖江へ持参仕候へハ段々御聞被成、右之吉太夫高・塩・漁共ニ方々へ書入置、大分之かり方有之候処、二郎右衛門壺人ニ被仰付候事も難成、其上本人吉太夫津輕参不罷有候へハ何共難被仰付候、吉太夫罷帰候内相待候様ニと被仰付二郎右衛門訴状御返し被成、又左衛門口上書ハ御請取置被遊候

一卯年諸役割方帳之句面悪敷候由ニ而、書直シ指上候様ニと右之帳面御返し可被成由、十六日鯖江へ被召寄今日権右衛門罷帰り候

同十九日

同廿日

同廿一日

同廿二日

一 国影村弥次兵衛方へ同村九右衛門と申者卯暮婚ニ取、辰暮離別ニ而罷出候、九右衛門十ヶ年斗以前ゑ請作之畑ニ去秋麦を蒔付置候処、右之九右衛門弥次兵衛方ニ罷有候内ニ蒔付置申由ニ候へハ、弥次兵衛方へ取可申由庄屋次右衛門を以申出候二付、年来九右衛門請作之義ニ候へハ種こやし代ハ弥次兵衛方へ返し候共、立毛之麦弥次兵衛方へ取申事ハ難成候、夫とても弥次兵衛方へ取可申と(事脱)の二候ハ、右之九右衛門ニ去々ヶ年之切米を積り相渡たせ可然由ニ候、それとていか様共下ニ而相済被申候様ニと次右衛門ニ申

聞候

前谷組

御廻米四百貳拾四石八斗八升

一金拾六兩三分銀四匁四分壹厘

浅草納不足米金納

但壹石二付貳匁三分七厘六毛

一金貳拾壹兩三分銀八匁七分

廻米入用

但壹石二付三匁九厘貳毛

ノ金三拾八兩貳分銀拾三匁壹分壹厘

内貳拾四兩三分銀貳匁八厘 辰春出

残 拾三兩三分銀拾壹匁三厘 不足

右者去卯廻米入用納庄屋勘定仕立候不足金、早々取立可被相納候、其節去辰春遣置候先割銀手形相返シ可被申候、以上

已 三月十六日

前谷村大庄屋

二郎左衛門殿

青山藤助 印

右之金村々辰春御廻米ニ割付之覚

御廻米四百貳拾四石八斗八升

一金拾三兩三分銀拾壹匁三厘

右不足銀

此銀八百三拾六匁三厘

但壹石二付壹匁九分六厘七毛七弗

此割

銀九匁七分九厘

前谷村

銀六拾貳匁五分壹厘

笹岡村

銀百三匁壹分九厘

宮谷村

銀百壹匁六分八厘

青野木村

内

五拾五匁三分七厘

弥次兵衛

貳拾七匁七分壹厘

五十郎

拾八匁六分

権兵衛

銀壹匁五分

西方寺村

銀三拾六匁九分壹厘

清王村

銀三拾貳匁三分九厘

赤尾村

銀拾三匁五分六厘

横垣村

銀百貳拾八匁八分

井江葭村

銀六拾四匁七分七厘

国影村

銀貳拾八匁六分貳厘

牛山村

銀百貳拾匁五分壹厘

舟津村

銀五匁貳分七厘

西谷村

銀三拾匁八分八厘

十楽村

銀四拾貳匁壹分八厘

田中々村

銀貳拾六匁三分六厘

番田村

銀貳拾七匁壹分壹厘

重義村

右者卯年御年貢米之内辰春江戸・大津御廻米入用銀不足二付追割被仰付候間、当月中二取立持参候様二と申触候

三月廿三日

一清王村庄左衛門持高四石三斗余同村権兵衛預ケ置、庄左衛門八四

年以前二江戸へ参候処、去々年江戸ニ而庄左衛門相果候ニ付、右之高返し不申由庄左衛門後家断申ニ付、清王村九右衛門・次兵衛・久右衛門・新兵衛・権兵衛・右之後家共ニ呼寄吟味仕候処、右之高七年以前亥年〆子ノ年式年預り候処、庄左衛門終ニ請出し不申流高二成候而庄左衛門江戸へ参候由ニ而、右之証文吟味仕候処村中之判形有之、村人共も流高二紛無之由申ニ付後家ニ其段申聞候、乍此上出入可仕との事ニ候ハ、書付いたし鯖江へ指上候様ニと申渡し候

同廿四日

一銀六百式拾四匁

かり主

井江葭村 庄屋
長百姓

此米式拾四俵

壺表ニ付式拾六匁つ、

此質高五拾石

右当六月切、貸主北金津庄山七兵衛、自分奥判之証文相渡候

一去夏宝性院大峰入奉加銀、去暮大割ニ入申間敷旨藤助様〆被仰付候ニ付指除置申候処、宝性院被参候而何れも〆右之金子申請候而、藤助様御取かへ金子ニ指上申度候、若藤助様右之金子御取不被遊候ハ、返シ可申由断被申ニ付、金五両之割自分与下へ三拾三匁八分七厘宝性院へ相渡し申、手形取置候

一番田村久左衛門持高之義、何れも金かし申者共田畑共割取申度由弥右衛門申ニ付、御陣屋不申上候而下ニ而百姓潰申義者成間敷候間、鯖江へ御断ニ参候様ニ申候へハ、只今鯖江へ参候事も難義ニ

候間、先当分ハ去年之通村下シニ可仕由弥右衛門申ニ付、尤之由申聞候

三月廿五日

同廿六日

同廿七日

一星鹿毛三才馬壺疋、髪切

清王村馬主

権兵衛

細呂木口通手形ニ奥判仕遣し候

覚

一金式両式分

国かけ村

一金壺両壺分

牛山村

一金式両壺分

清王村

一金式両半切

青野木村

一金四両

前谷村

一金四両三分半切

合金拾七両

右ハ御廻米入用先割金預り申候、鯖江へ指上御手形を相渡し可申候

前谷村源八郎（印）

三月廿八日

同廿九日

巳四月八日ニ書かへ渡ス

一金四両三分半切

舟津村

内

四両三分銀四匁七分三厘

巳春三匁銀

三匁壹分三厘

辰年追割

右之通請取預り手形相渡ス

一金拾七両 前谷村源八昨廿八日ニ鯖江へ持参仕今日罷歸り候

内

拾三両三分銀拾壹匁三厘

辰追割金御取、御手形不被遣候

三両銀三匁九分七厘

巳春御廻米入用金之御手形被遣候

同晦日

四月朔日

一伊藤彦五郎様・服部八左衛門様・日野小左衛門様・美濃・越前御蔵入御順檢ニ三月廿一日江戸御発駕之由、牧谷太左衛門方へ何も与頭中へ書狀指越被申候

一宮谷村義太夫・井江菫村義右衛門・横垣村茂兵衛・国影茂左衛門・十楽村与右衛門・番田兵右衛門・中川村半兵衛・福嶋村太左衛門、右之八人卯・辰両年諸役割帳今日へ相改申候

同二日

名寄帳上書

越前国坂井郡前谷村卯御年貢名寄帳

一右者坂井郡前谷村去卯御年貢小物成并御口米銀共ニ、御免状之通

大小之百姓出作等迄立合致免割、寅夫食・作食・年季拝借金之義者水吞百姓迄人別ニ借本年季之通返納仕、名寄帳ニ仕立、銘々判形仕指上申通少も相違無御座候、庄屋長百姓非分之割懸ケ仕候段御聞及被遊候者、何分之曲事ニも可被仰付候、為其庄屋長百姓連判指上申処仍如件

元禄十三年辰六月

前谷村庄屋

市兵衛 印

同長百姓

六兵衛 印

(古郡年明・鯖江代官)
古郡文右衛門様

御手代衆中

以後為覚書付申候

四月三日

同四日

同五日

一新家又左衛門、越中岩瀬と申所ニ而弟急病之由申来候、明六日ニ参五七日之内ニ可罷歸由断ニ候、急病之由ニ候故其通ニ仕候

同六日

一辰御年貢之内蔵預り手形二面村喜右衛門、預り手形舟津村弥次兵衛ニ渡ス、同喜右衛門預り手形牛山村次兵衛ニ渡ス、北方久右衛門預り手形赤尾庄右衛門ニ渡ス、若藤屋預り横垣村次右衛門ニ渡

ス、新屋惣兵衛預り清王村権兵衛ニ渡ス、惣兵衛・自分青野木村分之預り清王村権兵衛ニ渡ス、右御廻米相済候ニ付蔵預り手形村々へ返し申候

一卯・辰兩年諸役割方之改、今日□□^(相済カ)候ニ付右八人罷歸候、村々惣百姓判取申候

同七日

一右兩年諸役割帳前谷村市右衛門ニ為持鯖江遣し申候

一笹岡村宗左衛門昨六日ニ、称運寺・与三右衛門山出入之義ニ付鯖江へ参候

同八日

一右之帳共卯年分諸役割帳拾九冊、辰年分拾九冊、無相違指上候而市右衛門罷歸り候

同九日

一御廻米之義ニ付三国へ参候

同十日

同十一日

同十二日

一卯年諸役割帳去年指上候処、弥入念ニ相改書直シ指上候様ニと被

仰付、当三月十六日ニ御返し被成候を、以帳書直し指上候ニ付御返し被成候、帳ハ此方ニ留置候へハ右之帳御見合可被成候間、右之帳鯖江へ遣し候様ニと被仰越候

一村々古検帳之寄写并去辰年御検見引高、其外跡々引高之分田地上中下反別相改、帳面ニ仕立指上候様ニと年内被仰付候処、指上不申候ニ付早々指上候様ニと被仰候故、村々相改判形を取申候

同十三日

一右卯年役割下帳拾九冊、前谷村吉助ニ為持鯖江へ遣し申候

同十四日

一右古検帳之写壹冊、引高帳壹冊、以上貳冊之帳を為持、前谷村七兵衛鯖江へ遣し申候

一赤尾村又兵衛と申者北方村へ鯛買ニ参、北方村之者と口論仕、北方村之者共大勢罷出打擲仕候由庄屋長百姓参断申、其上金子壹分^(マ、)半切錢七匁五分、其場ニ而とられ申由断ニ付、右之又兵衛疵付申義有之候哉、又右之金子・錢取申候を慥ニ押へ申候哉と相尋候へハ、指而疵付申程之義ニ而ハ無御座候へ共、大勢ニ而打擲仕候ニ付痛申候、金子・錢之義被取申候を押申義も無御座、おとし候哉被取候哉覺へ不申由庄屋長百姓申ニ付、疵付申義も無之金子・錢共ニ被取候哉おとし候哉覺へも無之候処、他領へ何角と申懸候事成間敷候間、北方村^カ謠言も仕候ハ、堪忍仕候様ニと申聞候

一 右之帳鯖江へ指上候而前谷吉介罷歸り候

四月十五日

一 右之帳面鯖江へ指上候而前谷村七兵衛罷歸り候

一 卯・辰両年最前相改書直シ申帳、村々ニ指置候留帳、卯年分去年指上候帳、村々ニ指置候留帳、三通り之分早々鯖江へ可指上候、御改可被成由被仰越候

一 舟津村孫右衛門参申候ハ、赤尾村之者共と口論仕候北方村岸名七右衛門と申者、孫右衛門一門ニ候間何とそ下ニ而相済候様ニと申ニ付、右之壹分半切之金子を相弁出候ハ、赤尾村之者共ニ異見致し相済させ可申由申候得ハ、以後之証拠ニさへ成不申候ハ、何様ニも金子弁可申由孫右衛門申ニ付、如何様共証拠ニ成不申様ニ可仕候間、其通ニ而相済候様ニと申聞候

同十六日

同十七日

一 卯年分諸役割帳、村々ニ有之留拾九冊、辰年分同断拾九冊、卯年分去年指上候村々留帳拾九冊、鯖江へ持参仕藤介様へ指上申候
一 御巡見様御迎として当廿三日ニ藤介様并石田中川浅右衛門様美濃御帰被遊候ニ付、御廻り之村付・御宿付書付窺申ニ付、何れも存知寄も有之候哉御尋可被遊由ニ而、明後十九日ニ大庄屋共参候様ニと被仰越候得共、拙者義今日参候ニ付村付之段々被仰聞候ニ付、

成程可然御廻り之由申上候、其外之御用共承届罷歸り候

同十八日

一 鯖江に罷歸り候

同十九日

一 きりしたん高札壹枚

宮谷村

一同 壹枚

舟津村

一同 壹枚

田中々村

一 捨馬高札壹枚

笹岡村

一同

国影村

一同

西方寺村

一同

田中々村

一同

宮谷村

一同

青野木村

右之高札文字消候ニ付御書直シ奉願候

同廿日

一 国影村弥次右衛門持高、茂左衛門・藤兵衛・次左衛門・新右衛門質物二取、去辰暮切之処請出し不申候ニ付、納得ニ而高流申之由断ニ候

同廿一日

一 黒毛三才馬壹疋 青野木村
弥次兵衛

一 鹿毛三才馬壹疋 同人

右二ツ屋口通手形加判いたし候

四月廿一日

一金五両 重義村上乘六兵衛二渡

右者去辰之御年貢米之内当巳之春江戸御廻米船上乗ニ相究候ニ付、
自分与下三匁銀之内右之通六兵衛ニ相渡候而、重而六兵衛手形三
匁銀ニ立指上候様ニと藤介様被仰付候ニ付、右之通六兵衛手形請
取置候

同廿二日

一 善右衛門・平助鯖江へ被参候而、御巡見様御用之品々御廻り村付、
道筋御泊り・御休宿付承届、其上村々庄屋長百姓之外式三人壹村
ゝ五六人程、其村境迄罷出御案内可申者を吟味仕、名付仕指上可
申候、并庄屋長百姓廿五日ニ鯖江へ遣し候様ニと被仰付候由平介
方ゝ被申聞候、御用之品々段々書付有

同廿三日

一 織右衛門様御廻状被遣候ハ、御巡見様今廿三日今庄御泊り之由其
外段々被仰越、右廿五日ニ参候庄屋長百姓廿四日ニ遣シ申様ニと

被仰越候

一 坂井郡三人御様子窺ニ牧谷迄遣し申候、自分組ゝ清王村権兵衛遣
し申候

一 村々庄屋長百姓中呼候而、御巡見様方今日今庄ニ御泊り之由、就
夫鯖江ニ而被仰渡御用候間、明廿四日四ツ時分ニ御陣屋へ罷出候
様ニと申付候、其上右巡見様御通り之節、其村々罷出候者壹ヶ村
ニ六人ツ、相改名書仕候

一 前谷村清左衛門御宿支度申付候

一 田中々村才兵衛・十楽村与右衛門御宿支度申付候

一 清王村照嚴寺御昼休之義、清王村庄屋中ニ申渡し候

一 村々道橋悪敷所能可仕由、高札場・郷藏悪敷所能仕候様ニと申付
候

一 今日今庄ニ御泊り之由新庄平左衛門方書状参候

同廿四日

一 此度御巡見様ゝ先達而御条目御陣屋へ被遣候ニ付、村々庄屋長百
姓御陣屋へ被召寄、承知仕候段判形指上申候

一 昨廿三日ニ御巡見様今庄御泊り之由相違之由織右衛門様ゝ被仰越
候、御様子為窺之昨日参候、清王村権兵衛も鯖江ゝ罷歸り候

同廿五日

同廿六日

一御巡見様御宿御見立其外御普請所御改、久野右衛門様御越被成
段々被仰聞御泊り二候

一御用有之候間此配符参着次第鯖江へ参候様ニ藤助様被仰越候二付
鯖江へ参候

同廿七日

一久野右衛門様前谷村〆十楽村へ御越被成、与右衛門御宿支度御見
分被成候而舟寄村へ御越被成候

一藤助様美濃へ御越被成昨日御帰被遊候、就夫御巡見様之御様子被
仰聞候、当廿九日頃ニハ今庄御泊り可被遊候間、御出迎候而当国
御通り村次御宿相究跡より可被仰越由、其外段々別紙書付を以被
仰聞候、卯・辰両年御年貢請取之帳手形御尋之事も可有候間、村々
相改見届可申候、并村々高札入念候様ニと被仰付候二付承届罷帰
り候

四月廿八日

一村々庄屋中ニ藤助様被仰聞候段々申聞候

一金貳両十楽村与右衛門御宿拵二入用之由申二付、庄屋与三右
衛門二相渡し、則手形取置申候

覚

銀七拾目六分六厘

前谷組

右者去辰年御陣屋并御手代小屋并塩入用之内、くれ板・杭木、大

工其外御門番給前々より之積りを以大割ニ仕候へ共、此度御返し
被成請取申候、村々へ相返し拙者共方へ手形取置可申候、以上

巳三月十八日

前谷村
二郎左衛門 印

右之手形判形仕指上申候、銀子ハ請取不申候、重而指引ニ而御渡
可被成之由藤助様被仰渡候

一あつミ貳状

十楽村与三右衛門ニかし

一かさかミ貳状

田中々村才兵衛ニかし

巳春御廻米中札紙代銀之覚

一錢九文

廿六枚

前谷村

一五拾五文

百六拾四枚

笹岡村

一七拾貳文

貳百拾六枚

宮谷村

一四拾文

百廿枚

青野木村弥次兵衛

一四拾文

同

同村五十郎

一拾五文

四拾六枚

同村九右衛門

一三文

八枚

西方寺村

一五拾四文

百六拾貳枚

清王村

一貳拾六文

七拾八枚

赤尾村

一拾壹文

三拾四枚

横垣村

一九拾壹文

貳百七拾四枚

井江葭村

一四拾七文

百四拾枚

国影村

一貳拾三文

六拾八枚

牛山村

一九拾壹文

貳百七拾貳枚

舟津村

一七文

式拾枚

西谷村

一拾三文

三十八枚

十楽村

一拾文

三十枚

田中々村

錢合六百七文

紙合千八百拾六枚

四月廿九日

一御巡見様今晚今庄御泊り、明日牧谷へ御越之由鯖江へ被仰越候、
弥右衛門へ御積り之通八日前谷御泊り之支度仕候

五月朔日

一清王村権兵衛人足老召連候而今日鯖江へ牧谷村遣し候、御様為
窺申候、則織右衛門様、牧谷六郎右衛門方書状遣し申候、舟寄組
へ舟寄村由兵衛・後山組へ新五兵衛、三人同道二而牧谷へ参候

同二日

一牧谷村へ舟寄由兵衛罷歸、御巡見様御改之段々宿之様子承届候、
就夫御急被遊候二付七日前谷御泊り之由、御役人様方へ被仰越候
二付致承知候

同三日

一右権兵衛・新五兵衛、牧谷・下新庄両村御泊り村々御改之様子承
届候而、今日下新庄村へ罷歸り候、就夫藤介様へ口上を以被仰越

候ハ、殊之外御急二候故六日舟寄御泊りを御止被遊、大野郡森川
村へ前谷御越被為成、御泊り被遊候様被成度思召二候、左様二被
遊候而可成事二候哉、支申義も無之候哉、舟寄善右衛門・二郎左
衛門相談いたし、様子比嶋村迄申遣し候様二と被仰下候二付、善
右衛門方へ此方へ被申越候ハ、舟寄村御泊止申義二候へハ支申義
も無之候間、いか様共拙者方へ御返事申上候様二と被申越候二付、
善右衛門方へ返事申遣候ハ、昨晚迄八日御泊りと心得罷有候処、
七日御泊りと又申被仰越候二付、漸々其支度仕候処又候今日六日
御泊りと被仰付候而ハ、自分義ハともかくも可仕候得共、清左衛
門・中川村四郎左衛門支度出来兼可申候、其上森川へ前谷村へ八
里半程之道法二候処、道筋悪敷候へハ海筋拾里二も当り可申候、
舟寄村二御泊り被遊夫へ前谷村へ御越被遊候様二奉願候間、此段
其元へ比嶋飛脚二而被仰上可被下候、此方へ大野郡道筋存知たる
者無之候二付申入候段、善右衛門方へ申遣し候

五月四日

一乗鞍壱口、小道具不殘

青野木村

一同断

自分持鞍

右式口之鞍舟寄村善右衛門方へ相渡申候

一右之段々舟寄村善右衛門方へ比嶋村江飛脚遣し候間、御返事参次
第可申越由善右衛門方へ被申越候

一清王村権兵衛口上之趣村々庄屋中呼候而申聞候

同五日

一 南条郡・今立郡御廻り之様子、春日野村右衛門用事候而被参候ニ付物語承候

同六日

一 御巡見様方今日森川村御泊り、明七日舟寄村御泊り之由、藤助様・織右衛門様舟寄へ御越之由善右衛門方へ被申越候付、舟寄へ参候而御両人様へ御意得候処、村々庄屋長百姓ニ御用候間明日舟寄へ指越候様ニと被仰付候ニ付、罷帰候て配符遣し申候

寅辰迄拾五年御直段

一 銀四拾三匁 寅年

一 銀三拾八匁四分七厘 卯年

一 銀三拾六匁六分七厘 辰年

一 銀四拾匁三厘 巳年

一 銀三拾壹匁六分七厘 午年

一 銀三拾七匁八分 未年

一 銀三拾五匁七分三厘 申年

一 銀三拾三匁六分四厘 酉年

一 銀三拾六匁五分貳厘 戌年

一 銀四拾七匁六分 亥年

一 銀三拾七匁貳分 子年

一 銀四拾五匁七分九厘 丑年

一 銀四拾五匁五分三厘 寅年

一 銀五拾九匁八分四厘 卯年

一 銀五拾五匁九分三厘 辰年

右何茂金納御直段、米納ハ右ニ貳匁下り

同七日

一 御巡見様雨降申ニ付森川村御逗留舟寄村へ御越不被遊候
一 藤助様・織右衛門様昨日舟寄村へ御越被遊候ニ付、我等昨日舟寄へ参候処、村々高札場御通り道筋之義ニ付、村々庄屋長百姓舟寄村へ被召寄様子御聞被成候

同八日

一 今日天氣悪敷候ニ付森川村ニ御逗留被遊候
一 久野右衛門様十楽村与右衛門方之御宿御改被成、夫へ前谷村ニ御泊り被成候、九日ニ舟寄へ御越被成候

五月九日

一 御巡見様森川村へ舟寄村へ御越被遊、服部八右衛門様善右衛門御宿、伊東彦五郎様宗右衛門御宿、日野小左衛門様五右衛門御宿、右馬・人足ハ森川村へ直ニ舟寄村へ送申候
一 中筋村・北横地村・舟寄村此三ヶ村、舟寄村堂ニ而御改被遊相済

申候

同十日

一御巡見様舟寄村御出立被遊、大針・徳分田・上新庄・谷畠・宮前・藤沢・宮領・田嶋・川和田・御油田・玄女・里竹田・南疋田・伊井・清間、玄女村河原二而御改相済申候

一後山村茂右衛門方二而御三人様共二御昼休被遊候

一川上・後山・清滝・鎌谷・櫛村・前谷・笹岡七ヶ村、帝尺堂前二而御改相済候

一北疋田・二郎丸・田中・中川・北村・北野、此六ヶ村右同所二而御改相済候

一日野小左衛門様前谷次郎左衛門御宿、服部八右衛門様同村清左衛門御宿、伊東彦五郎様中川村四郎左衛門御宿二而御泊り被遊候、人馬共舟寄村^〆前谷村へ直二送り申候

一前谷村清左衛門方へ給仕人後山村権助・義左衛門、料理人後山村安右衛門・田嶋村之者𪛗人、御馳走人里竹田村平左衛門・後山村新五兵衛二而相勤候

一同村二郎左衛門方へ給仕人清王村弥五郎・柿原十楽村十兵衛、料理人十楽村仁兵衛・前谷村源八、御馳走人笹岡村宗左衛門・前谷村伝右衛門

一藤助様・久野右衛門様前谷村伝右衛門方二御泊り

一織右衛門様十楽村二御泊り

同十一日

一右御三人様前谷村御出立、小左衛門様・八右衛門様御送り之人馬不残後山組^〆相勤候、彦五郎様御送り之人馬石田方^〆相勤候

一御簾尾・矢地・菅野・高塚・柿原十楽、右之五ヶ村高塚村二而御改相済候

一宮谷・青野木・西方寺・清王・赤尾、右之五ヶ村右同所二而御改相済候

一右御三人様共二清王村照嚴寺方二而御昼休被遊候、人馬前谷組^〆罷出十楽村御送り仕り候

一右高塚村二而馬場村利兵衛妻訴状指上候処、段々御聞被遊被仰渡候ハ、御料^〆訴出候義ハ御聞届被遊事、私領^〆之訴ハ御聞不被遊、殊ニ相手南金津平野屋四郎左衛門と高出入之事ニ候へハ御取上不被遊、訴状御返し被為成候

一横垣・井江葭・国影・牛山・舟津・城・同新家・西谷・十楽・田中々村・番田・重義、右拾式ヶ村番田村川端二而御改相済候

一池上・加戸・崎浦・安嶋、右四ヶ村右同所二而御改相済候

一日野小左衛門様十楽村与右衛門御宿、服部八右衛門様布目村彦兵衛御宿、伊東彦五郎様助右衛門御宿

一十楽村与右衛門方給仕人十楽村之者共、御馳走人十楽村彦兵衛・田中々村才兵衛、料理人十楽仁兵衛・前谷村源八

一藤助様・織右衛門様・久野右衛門様十楽村二御泊り

一日野小左衛門様、昨晚自分方ニ御泊りニ付、当郡夫米御訴訟ニ付

(元禄8、11年舟寄代宣)

丑年江戸へ罷越、宍倉与兵衛様へ申上候処翌寅年右与兵衛様御所

(古郡年明・鯖江代宣)

替りニ付、当御代官文右衛門様へ申上候得共、于今何之被仰渡も

無之候、何とぞ御慈悲を奉願候と、定納之夫米ニ而百姓力付不申

候段口上を以段々申上候へハ、今日小左衛門様被仰聞候ハ、夫米

訴訟之事残御兩人様へも御物語被為成被下候由被仰聞候ニ付、

跡々御代官様方へ指上候訴状之留御座候間、写指上可申候間被為

入御披見被下候様ニと申上候へハ、今晚指上候様ニと被仰聞候ニ

(石田代宣)

付、寅十月ニ古郡文右衛門様・馬場源兵衛様御両方へ指上候訴状

を写、坂井郡大庄屋舟寄村善右衛門・後山村平介・前谷村次郎左

衛門・布目彦兵衛・野中村五左衛門・兵庫村武兵衛・東長田村源

左衛門・大牧村豊左衛門・米納津村清左衛門、右之九人判形ニ而

御三人様御寄合之節前波半左衛門殿を以右之書付指上候へハ、訴

状御請取被遊候、前々御代官中へ為申上置事ニ候へハ、御頭様

(御九)

□尋於被遊ニハ御巡見へも訴申段可被仰上由被仰出候

五月十二日

一右御三人様布目村・十楽村御出立被遊候、人馬ハ石田方不殘御
送り申候、村々御改被遊夫下野村ニ御泊り被遊候

一藤助様・織右衛門様・久野右衛門様川舟ニ而下野村へ御礼として

御越候、自分も此間組下御機嫌能御廻之御礼ニ下野村へ参候

同十三日

一右御三人様天谷村ニ御泊り

同十四日

一右御三人様栃川村ニ御泊り

同十五日

一栃川村ニ御逗留之由

一為御見送り大庄屋共鯖江罷出候

同十六日

一栃川村ニ御逗留被遊候由

日野小左衛門様御手代西沢喜六郎殿

服部八右衛門様御手代前波半左衛門殿

伊東彦五郎様御手代宮川勘七郎殿

右御三人様四月九日美濃国笠松村ニ御着之由、夫美濃国御巡見
被遊越前国へ御移り、五月一日牧谷村御泊り、同二日下新庄村御
泊り、同三日戸口中村、同四日大野郡森政地頭村、同五日比嶋村、
同六日森川村雨天ニ而九日迄御逗留、九日ニ舟寄村、同十日前谷
村・中川村、十一日布目村・十楽村、同十二日下野村、同十三日
天谷村、同十四日同十七日迄御逗留ニ而、明十七日御帰府御発
駕之由申来り候

同十七日

一右御三人様栃川村御出立被遊、石田御陣屋へ被為入候、鯖江下与頭共不残并杉山織右衛門様同道ニ而水落・神明迄御迎ニ罷出、是ニ而御目見得仕御供致シ鯖江御陣屋へ御入被遊、御昼休被遊候而夫ゝ府中へ御越御泊り被遊候、然処柳原と府中之間ニ而丹生郡坪谷・甕谷近所四ヶ村之者共栃川村と山境出入之事書付指上申候処、御当番日野小左衛門様訴状御請取被遊候而被仰聞候ハ、今晚府中ニ而様子御聞可被成由被仰渡候、青山藤介様・杉山織右衛門様・斎藤久野右衛門様御送り被遊候、与頭共右御三人共二府中黒梅屋方ニ泊り申候、弘之義牧谷太左衛門方ゝ相渡し申候

同十八日

一右御三人様府中御出立被遊候処、松森ニ而今立郡古木村之者訴状指上申候、何れも不残今庄迄御供いたし、与頭共不残斎藤新右衛門方ニ泊り申候、戸口弥左衛門ハ外ニ泊り申候、雑用弘ハ新庄平左衛門請込弘申候

同十九日

一右御三人様今庄御出立ニ而、与頭共不残上口ニ而御暇乞申上、今庄ゝ罷歸り鯖江御陣屋参候得ハ、安嶋源五右衛門様江戸ゝ御越ニ付何れも御目ニ懸り申候、夫ゝ福居へ参泊り申候

同二十日

一福居ゝ舟ニ而三国へ参候

同廿一日

同廿二日

五月廿三日

同廿四日

同廿五日

一新家吉太夫妻兄弟共めしつれ、庄屋長百姓当廿七日・八日両日之内ニ鯖江へ参候様ニと織右衛門様ゝ被仰越候ニ付、其段新家へ申遣し候

同廿六日

一新家又左衛門参候ニ付何事ニ候哉、此方へも御用知不申候、早々参候様ニと申付候

同廿七日

同廿八日

同廿九日

六月朔日

同二日

同三日

同四日

同五日

同六日

同七日

同八日

一 笹岡村利兵衛、同村清右衛門と出入之義、庄屋長百姓扱候得共相
濟不申候、利兵衛訴状ニ添状仕御陣屋へ指上させ申候、当十九日
ニ返答書付庄屋長百姓共ニ罷出度様ニと被仰付候

同九日

同十日

同十一日

一 鯖江ニ而大割仕候間、大庄屋中并立合共召連今日参候様ニと下新
庄平左衛門方を申越候ニ付、宮谷村義太夫今日を鯖江へ参候

同十二日

一 我等義今日鯖江へ参候

同十三日

同十四日

同十五日

同十六日

一 鯖江諸入用之義、跡々之格を以大割・内割共ニ相済申候

一 銀三貫九百四拾七匁四分七厘 大割本

此割高七万九百九拾三石貳斗六升

但千石ニ付銀五拾五匁六分三毛ツ、

内六百四匁八分五厘 前谷組

此高八千拾八石六斗四合

一 銀貳貫五百七拾匁貳厘 内割本

此割高右同断

但千石ニ付銀三拾六匁貳分ツ、

内貳百九拾匁貳分七厘 前谷組

此高右同断

右之通ニ而割方相済申候、本帳寄写有、本帳下新庄村平左衛門預
り置申候

一 御巡見様御宿拵・御昼休・宿拵其外馬人足之義組々を帳面差出候
処、高下有之ニ付南条・今立・坂井郡組々を罷出候立合之者共申
出候ハ、如此之銀高郡中惣割ニ仕候故ハ、帳面御陣屋へ指上御指
図を請申度と申ニ付、御陣屋ニ而御指図も難被成事ニ候故、高下
之義無構与々ニ而割ニ可仕由相談相究候処、松ヶ谷組大野郡入用
銀多候ニ付組割ニ仕候事難義之由申ニ付而、御陣屋ニ付を銀四百
匁松ヶ谷へ与内、大野郡へハ当暮少々郡中を与内可申由ニ而、右
入用銀郡割仕筈ニ候、郡中惣割ニハ不仕候

一辰御口米直段之義、当分町直段四斗六升表二付貳拾七匁三分、
上米ハ貳拾八匁迄仕候付、壹石二付六拾三匁直段ニ被仰付被下候
様ニと、何も大庄屋共一紙ニ而願狀指上申候

一当年照り続候ニ付田方植付遅成申ニ付、其段大庄屋共一紙ニ而書
付指上候

一南条郡向新保村川除御普請人足郡中へ当り申ニ付、入用ニ而日用
雇申ニ付、其日用銀只今御取立可被成由ニ候得共御断申上、当分
御廻米先割銀之内ニ而御引かへ被下候様ニと、何も大庄屋共一紙
願狀指上申候

右三通共ニ留書有

覚

一人足貳拾五人

笹岡村

此米壹斗貳升五合

此代銀六匁九分九厘 壹石五拾五匁九分三厘

一人足四百九拾七人半

清王村

此米貳石四斗八升七合五勺

此銀百三拾九匁分三厘

内百貳拾四匁七分貳厘重義村へ渡ス

一人足百八拾六人

田中々村

此米九斗三升

此銀五拾貳匁壹厘

一人足三百八拾六人

十楽村

此米壹石九斗三升

此銀百七匁九分四厘

人足合千九拾四人半

此米^(五)石四斗七升貳合五勺

此銀三百六匁八厘^(マ、)

内 四匁七分

番田村古樋代

壹匁貳分

重義村古樋代

ノ五匁九分

藤助様へ指上ル

残三百匁壹分八厘

此金五両銀壹分八厘

右之金子請取手形藤助様へ指上申候

六月十七日

一右鯖江ニ而大割之義、門兵衛方へ寄合候而右之段々ニ而大割・内

割共ニ相済申候ニ付、何れも今日鯖江へ罷歸り候

同十八日

同十九日

同二十日

覚

一人足六拾人・馬拾五疋

舟寄組へ出

御巡見様五月十日ニ舟寄へ後山村御昼休迄御送り馬人足

一右之人馬ニ而舟寄組之者後山村^〆御泊前谷村へ御送り

一人足四拾人・馬拾疋 後山組^〆出

右御兩人様五月十一日二前谷村^〆御昼休清王村迄送り

一人足六拾人・馬拾五疋 前谷組^〆出

右御三人様五月十一日御昼休清王村^〆御泊り、十楽村布目村

迄御送り

人足^ノ貳百貳拾人

此銀貳百貳拾匁

馬^ノ五拾五疋

此銀百拾匁

貳口銀合三百三拾匁

此割

銀百拾匁

舟寄組

内百八拾匁

舟寄組人馬代

銀百拾匁

後山組

内六拾匁

後山組人馬代

銀百拾匁

前谷組

内九拾匁

前谷与人馬代

^ノ

一銀拾七匁五分

後山村新五兵衛

是ハ坂井郡三組也、巳ノ年普請帳写ニ鯖江へ参候六月三日^〆

同七日迄日用食代

一銀貳匁 右之帳紙代

銀合拾九匁五分

内

六匁五分

舟寄組

六匁五分

後山組

内拾九匁五分 後山組ひかへ

六匁五分

前谷組

^ノ

右之通善右衛門・平助割付帳被指越候得共、舟寄組^〆出候人馬舟寄^〆前谷村へ御三人様六月十日二御送り二候へハ、人馬共二一日分之日用、後山組・前谷組ハ同十一日二半日ツ、之御送り二候へハ、半日分之日用ニ可成事之様ニ存候間、此段御了簡候様ニと善右衛門・平助方へ申遣し候

覚

一銀貳拾八匁貳分

舟寄善右衛門^〆書出シ

是ハ鯖江^〆被遣候御用状、舟寄村^〆直ニ後山・前谷へ遣し申

ニ付日用銀之由

此高貳万三千八百七拾八石五斗七合

但百石ニ壹分壹厘八毛貳弗ツ、

此割

銀九匁

舟寄組

此高七千六百貳拾石六斗九升八合

内式拾八匁式分 舟寄組ひかへ

銀九匁七分三厘 後山組

此高八千貳百三拾九石貳斗五合

銀九匁四分七厘 前谷組

此高八千拾八石六斗四合

右之通後山村平助方を割出し被指越候

六月廿一日

同廿二日

同廿三日

一 錢三百四拾八文内 四拾八文久野右衛門様五月九日□、貳百文御同人
(錢) 五月九日御泊、百文藤助様

一 銀四百四拾八文内 四拾八文織右衛門様五月十日昼、貳百文御同人十
日十二日迄

右之旅籠代請取手形指上申候

一 銀四拾九匁四分八厘 彦五郎方二而旅籠代

已正月六日同五月十九日迄之内はたこ代・万かい物代銀共二

内 四拾三匁五分六厘 割銀之内二而入
残五匁九分四厘 不足有

同廿四日

同廿五日

同廿六日

一 辰暮を已夏迄鯖江大割・内割・組割・御巡見様入用割方、共二何

之無出入相済申候

同廿七日

同廿八日

六月廿九日

七月朔日

覚

一金七拾貳兩壹分銀三匁四分貳厘 御年貢金三匁銀二上

一金五兩 上乘重義六兵衛手形

一金拾貳兩壹分銀壹匁壹分三厘 已夏わり銀下新庄平左衛門二可

相渡

一金五兩 大柳太兵衛二可相渡

右之通預り申候、方々相渡シ手形二而指引さん用可申候

前谷村源八

覚

一 銀三拾壹匁三分五厘 前谷組

是ハ御陣屋惣垣廻・御手代小屋廻り垣入用如此

一 銀五拾三匁八分 同

是ハ牢屋修覆入用割如此

八拾五匁壹分五厘

右ハ今度仕立候二付我々致見分、諸色入用直段吟味之上、西鯖江
村清兵衛・小黒町村大工十兵衛二申付、委細仕様帳有之候、右之

金近日早々清兵衛方へ御渡可被成候、右之外御陣屋塀垣入用八重而可申懸候、以上

巳六月廿六日
戸口組頭 玉村弥左衛門 印
下新庄与頭 福岡平左衛門 印

大野郡与頭中
坂井郡

右諸色入用銀当分我等方へ取替相渡候間近日返納可有候、以上

六月廿六日
青山藤介 印

右之廻状後山村へ参候

同二日

一御巡見様御通り之時、上領方へ鞍壱口久野右衛門御乗候而御越被成鞍、此方ニ有之二付前谷村人足ニ為持鯖江へ遣し申候、此人足之義郡中大割ニ可成人足之由故鯖江清兵衛ニ断置申候、并今日源八御金持参仕候

同三日

一金七拾壱両 藤助様仮り手形

外壱両 青野木村悪金かへ取

壱分 赤尾村悪金かへ取

三匁四分三厘 銭ニ而請取

一金五両 上乘六兵衛手形返り取

一金拾貳両壱分壱匁分三厘

是ハ巳夏割銀掛屋仁兵衛ニ相渡し、仁兵衛手形有
大柳太兵衛殿へ相渡、返状有

右八源八今日罷帰候ニ付指引如此ニ候

同四日

丑御年貢之内寅春御廻米之覺

一米拾壱表 前谷村

内壱斗八升九合 欠米

銀壱匁分貳厘

一米百拾九表 笹岡村

内貳石五升 欠米

銀拾貳匁七厘

一米九拾四表 宮谷村

内壱石六斗壱升九合 欠米

銀九匁五分三厘

一米九拾貳表 青野木村

内壱石五斗八升五合 欠米

銀九匁三分三厘

一米貳表 西方寺村

内三升五合 欠米

銀貳分三厘

一米三拾貳表 清王村

内五斗五升壹合	欠米	銀拾壹匁五分七厘	井江葭村
銀三匁貳分四厘		一米百拾貳表	
一米四拾表	重義村	内壹石九斗貳升九合	欠米
内六斗八升九合	欠米	銀拾壹匁三分六厘	
銀四匁六厘		一米拾三表	横垣村
一米三拾七表	番田村	内貳斗貳升四合	欠米
内六斗三升七合	欠米	銀壹匁三分貳厘	
銀三匁七分六厘		一米三拾三表	赤尾村
一米四拾九表	田中々村	内五斗六升八合	欠米
内八斗四升四合	欠米	銀三匁三分五厘	
銀四匁九分七厘		一米六拾貳表	国影村
一米四拾六表	十楽村	内壹石六升八合	欠米
内七斗九升貳合	欠米	銀六匁貳分九厘	
銀四匁六分七厘		八 ^ノ 八百九拾俵	
一米貳拾七表	牛山村	内拾五石三斗三升	欠米
内四斗六升五合	欠米	銀九拾匁三分	壹表二付壹分壹毛五弗 ^(納) □
銀貳匁七分五厘		一米拾貳表	北野村
一米七表	西谷村	内貳斗七合	欠米
内壹斗貳升壹合	欠米	一米拾九表	北村
銀七分壹厘		内三斗貳升□合	欠米
一米百拾四表	舟津村	一米百四表	中川村
内壹石九斗六升四合	欠米	内壹石七斗九升壹合	欠米

一米五拾八表 田中村

内九斗九升九合 欠米

一米六拾八表 矢地村

内壹石壹斗□升壹合 欠米

一米百拾四表 菅野村

内壹石九斗六升四合 欠米

一米五拾四表 柿原十楽村

内九斗三升 欠米

一米四拾□表 高塚村

内七斗四升壹合 欠米

一米六表 谷畠村

内壹斗三合 欠米

右者寅春御廻米入用銀指引被成候而、(元禄8、11年舟寄代官)六倉与兵衛様を戻り銀被遣候由、右米高ニ割符可仕由布目彦兵衛方を被申越候付、右之通書付遣し申候

一久野右衛門様御普請御指図可被成由ニ而御越被遊御泊り被成候

同五日

一久野右衛門様十楽村ニ而御昼休被成舟寄村へ御越被成候

同六日

一六日切請合之御金請取申候

同七日

同八日

一今日・明日兩日之内宗旨御改、寺方之判形舟寄村善右衛門方ニ而取申ニ付權右衛門遣し申候

同九日

一宗旨御改寺判無相違相済候ニ付舟寄村を權右衛門罷歸り候

七月十日

同十一日

一西方寺村十右衛門・市郎右衛門申来り候者、西方寺村ニ而操を仕候処、十楽村弥三兵衛交可申由契約仕候而、弥三兵衛十楽村ニ而かふきを取立仕候而、依之西方寺村操ニ大分損料參候ニ付、弥三兵衛操交申間敷と申ニ付、与頭兵庫武兵衛へ相断、其上石田へ御訴訟ニ可參と申ニ付、最前其村操仕候由風聞有之ニ付、御法度ニ候間操仕候事相止候様ニと書付遣し候へハ、相心得申由面々判形乍仕又候操を仕候而、其上ニ而出入取結申段不届千万ニ候間、出入下ニ而相済、何万へも御訴訟に參候事無用之由申聞候得共承引不仕候付、御仕置相背申義何共此方を可申様も無之候間、心任せニ仕候様ニと申口上書取置申候

一滞申御金今日請取申候

一金八両 借主舟津村^{庄屋}
長百姓

此質高拾六石、来十月十五日切、利足壹わり、かし主北方
村七右衛門裏判いたし候

同十二日

一金八両壹分 借主舟津村^{庄屋}
長百姓

此質高三拾石、来十月切、利足世間並、奥判仕候、貸主二
面村喜右衛門

同十三日

一金貳百八拾兩銀拾匁

一金七拾壹兩 藤助様巳七月二日仮り手形

一金五兩 上乘重義村六兵衛手形

ノ三百五拾六兩銀拾匁

内

貳百八拾兩壹分銀四分 御年貢通ニ□

貳拾七兩壹分銀三匁四分二厘 巳春三「」

三拾七兩貳分銀拾貳匁七分壹厘 辰御口米代

壹兩壹分銀九匁八分貳厘 惣包賃銀

壹兩壹分銀拾壹匁貳分 木屋太郎兵衛へ

壹兩 かみ代銀之内 田中屋江

貳分 八万屋江

貳兩 大柳太兵衛様へ

三分銀拾貳匁五分 鳥や武兵衛へ

壹兩三分 悪金ニ而返ル

壹分銀拾貳匁壹分 自分かい物代

残 ノ三百五拾四兩三分銀貳匁壹分五厘

壹兩壹分銀七匁八分五厘 請取

右ハ昨十二日ニ権右衛門・源八鯖江へ御金遣し□候^(申力)ニ付指引如此

ニ候、兩人今日罷歸り候

一辰御年貢元帳、織右衛門様被遣候を我等方之帳読合、右之御帳返
進いたし候

一巳年宗旨御改帳指上申候

同十四日

同十五日

同十六日

同十七日

同十八日

同十九日

同廿日

一中野元右衛門様を被仰越候ハ、辰ノ年名寄帳為仕立候而早々指上
候様ニと被仰越候ニ付、其段村々申付候

七月廿一日

同廿二日

同廿三日

一 斎藤久野右衛門様を被仰越候ハ、去年中願上候重義村御普請所古川縁之水囲并水門共ニ被仰付候間、早々右之御普請為致候様ニと被仰越候ニ付、則重義村へ其段申付候、御普請帳之写被遣候

同廿四日

一 十楽村ハ与三右衛門内意之由ニ而物語仕候ハ、同村三郎左衛門と申者高拾八石持申百姓ニ御座候処、当月十二日之夜火を付申候処、村中寄早速消候而家ハ焼不申候、然処何者之しわざニ候哉、十三日之夜高札場ニ札を立候而、右之三郎左衛門ニ四拾年以来之遺恨有之ニ付、火付候得共家を焼不申候、重而又火を付可申候間、隣あたり用心仕候様ニと書付置申候、此義御断申上候共、何と御吟味可有様も無之候ニ付其通ニ仕置、村中共ニ用心堅申付候、御吟味を願申ニ而ハ無之候得共、村ニ有之事ニ御座候故内意申候由与三右衛門申ニ付、村を願無之候処何と可仕様も無之候間、随分三郎左衛門并あたり隣共ニ用心堅仕候様ニと申聞候

同廿五日

同廿六日

同廿七日

一 御手形為持源八鯖江へ遣し候

同廿八日

同廿九日

同晦日

一 渡辺团右衛門様、越後於弥彦ニ当六月十七日御煩付候而、七月十一日ニ御死去之由申来候

八月朔日

一 滝谷町次郎右衛門牢舎被仰付闕所被成候由承及候ニ付、同町庄屋徳右衛門・八兵衛・同与頭三郎左衛門方へ源八を以申遣候ハ、二郎右衛門本屋之向出蔵壹軒・屋敷共ニ自分方へ質物ニ取置候間、次郎右衛門義ハ何様ニ被仰付候共、質物之義ハ無相違御渡し被下候様ニと申遣候へハ、与頭・庄屋方を之返事ニハ、下ニ而兎角難申候、丸岡へ申上御指図次第二可仕と返事ニ候

同二日

同三日

一 与下村々庄屋長百姓呼寄、辰御年貢同小物成米金皆済帳、同皆済状之判形取申候、并名寄帳口張印、御法度書之判形取申候

一 村々御ふしん所早々被仕立候様ニと申聞候

一 十楽村与三右衛門清介ニ申候ハ、三郎左衛門事隣之者共を願も有

之候ハ、何とぞ御陣屋へも可申上候得共、村を不申上候ニ付此方
を何共不申上候間、其心得可有候と申聞候

一同村又兵衛上総を江戸へ罷出候由、江戸ニ而罷有候所聞届御陣屋
へ御注進可被申上候、若無宿者ニ成候ハ、村中共ニ急度可被仰候
間、其心得可有候と申聞候

一元右衛門様を当五日・六日ニ清左衛門酒桶符印ニ御越可被遊候間、
其段清左衛門方へ申付候様ニと被仰越候ニ付則申付候

八月四日

一権右衛門鯖江へ遣し申候

同五日

一金壹両三分 辰御年貢金悪金之代ニ上

一金壹両壹分銀拾匁壹分五厘 御陣屋垣廻・御手代小屋・牢屋修覆
入用ニ藤介様へ指上

一辰御年貢皆済状・同帳共ニ織右衛門様へ指上、御裏判被成被下候
様ニと申上候

一十楽村三郎左衛門事御内意ニ御物語為致候、とかくの被仰渡無之
候

一名寄帳、元右衛門様御留主ニ而御家来八助ニ預ケ置申由
右権右衛門ハ今日罷歸り候

一笹岡村利兵衛・清左衛門出入之義ニ付、両人并庄屋長百姓共ニ昨

日鯖江へ参候

一重義村御普請扶持之義申上候へハ御吟味被遊候処、我等帳面ニ清
王村御普請人足四百九拾七人半と有之候、内四百四拾六人重義村
分、五拾壹人半清王村分ニ候間、清王村を取返し重義村へ相渡申
様ニと被仰付候

覚

一銀三拾七匁五厘

前谷組

右者先達而申遣候通御陣屋之屋根并塀修覆入用吟味仕候処如此ニ
候、藁・縄・竹・杭等買調近日早々普請申付候間、書面之当り銀
来ル十日迄之内ニ西鯖江村清兵衛方迄可被遣候、為其如斯ニ候、
以上

八月二日

戸口村与頭弥左衛門

下新庄村与頭平左衛門

郡中与頭中

右之通陣屋修覆入用無相違候、委細^(此カ)□帳面ニ記我等方^(二カ)□有之候間
重而可有一覧候

八月二日

青山藤助□

同六日

同七日

同八日

一清王村庄屋中呼寄、最前相渡候御普請人扶持相違有之候而渡過有

之候、則重義へ可相渡銀ニ候間早々被相返候様ニ申渡候

同九日

同十日

一中野元右衛門様酒桶封印ニ御越候而御改被遊、同十一日ニ御歸り被成候

同十一日

同十二日降

同十三日降

一田中々村地内ニ水囲置堤之修覆被仰候付普請仕候処、上番・中番・下番三ヶ村の水囲仕候へハ、右三ヶ村田地水入ニ罷成候間、此御普請止申様ニと田中々村へ使遣し申二付、田中々村の返事ニ、金津川筋所々ニ水囲置堤数ヶ所有之处、此普請斗三ヶ村之支ニ成候哉、是ハ御訴訟之上御公儀様被仰付被下候普請之義、為下と相^(止方)事難成候と返事申由、田中々村の申来り候

同十四日晴

同十五日降

一田中々村水囲置堤之義ニ付上番・中番・下番三ヶ村の訴出候由ニ而、布目彦兵衛・野中村五左衛門方の書状参候ニ付、我等方の返事仕候、留書兩人書状有

○御状致拝見候、如仰之久々不得御意御物遠ニ罷過候、弥御別義^(無脱)

御勤珍重奉存候、仍而田中々村地内金津川筋縁ニ水除之置堤仕候ニ付、上番・中番・下番三ヶ村迷惑仕候ニ付、取除候様ニと田中々村へ断候得共承引不仕候ニ付、拙者方へ御断之段致承知候、田中々村田地水囲之御普請所、御訴訟仕相叶候ニ付此間普請為致候、先田中々村之者共呼寄様子承、重而委細之御報可申達候、恐惶謹言

八月十五日

土屋二郎左衛門判

近藤彦兵衛様

小嶋五左衛門様

右之通之返事村次ニ而遣し申候

八月十六日降

一昨日布目彦兵衛・野中五左衛門方の書状参候ニ付、田中々村庄屋長百姓呼寄右置堤之義相尋候へハ、先年有来り候置堤損候ニ付御訴訟申上修覆被仰付被下候ニ付、上番・中番・下番三ヶ村の何角不懸事被申候、とても為私と右之置堤取除申事不罷成候由申候○昨日被仰聞候田中々村地内金津川端ニ水囲置堤之義、田中々村之者共ニ様子相尋候へハ、先年水囲置堤有之候処近年置堤損シ、依之毎年水損仕致迷惑候ニ付、古堤修覆被仰付被下候様ニと御訴訟申上候処、願之通修覆御普請被仰付候被下候ニ付普請仕立候処、上番・中番・下番三ヶ所不懸義何角と被申候とて、

為私と古来有来り候置堤取除申義罷成間敷由田中々村「」
申候間、左様ニ得御心可被成候、恐惶^(謹言)□□

八月十六日 土屋二郎左衛門 判

近藤彦兵衛様

小嶋五左衛門様

右之通両与頭中へ書状遣し候

一織右衛門様能州御越^(被)□成候ニ付夕へ舟寄「」御泊り、今日金
津御通り候故、権右衛門「」遣し御暇乞為致申候、殿「」

「江戸御立被遊能州御寄被遊来「」一時分ニ此方へ御越
可被遊由被仰越候、并村々御普請所早々為仕候様ニと被仰付候

同十七日降

同十八日降

同十九日降

同廿日晴

一此間大降ニ付十七日之夜^ゝ方々大洪水ニ而、人馬・家・諸道具共
ニ大分流失申候、其外田畑作毛・川除・水囲之堤等大分損申候、
依之与下村々へ罷出様子見申候

同廿一日

同廿二日

(大宮茂富・福井藩金津奉行)
一大宮彦右衛門様当十九日ニ江戸御帰被遊、今日金津へ御越之由承

候ニ付、金津参候得共彦右衛門様ハ御越なく候ニ付、六右衛門殿
・弥兵衛殿・徳左衛門殿へ御悦申入候

同廿三日

一舟津村去年十月火事ニ相申候者共訴状指上候趣者、火事ニ而大分
他借仕候間、御金三拾五両年符ニ御拝借被仰付可被下候、次二段
免被仰付被下候様ニとの訴状ニ候、然共御拝借之義願候而も御取
上ケ被遊間敷由、去々年・去年御代官様御直ニ被仰聞候、扱段免
之義御法無之事ニ候へハ相叶申間敷段々、孫右衛門・甚右衛門・
次右衛門三人ニ申聞候得ハ、何様ニも御訴訟之品をかへ相叶申様
ニ仕くれ候様ニと申ニ付、然者何とぞ当御検見之節火事之者共引
高二成候様ニ願可申候間、其心得いたし候様ニと申聞候
一栗毛三才馬壺疋 髪切 重義村馬主
十右衛門
板取口通手形奥判いたし候

八月廿四日

一鯖江へ今日罷越候

一此間之大洪水ニ而村々田畑立毛水痛之義、殊重義・番田・田
中々村・十楽村田畑共ニ洪水ニ而痛申段申上候
一田中々村水囲置堤之義ニ付、上番村・中番村・下番村此三ヶ村
ゝ何角と申出候由ニ而、布目村彦兵衛・野中村五左衛門方^ゝ書
状遣し申趣、并右之場所仮絵図仕様子申上候

一舟津村火事人共訴訟之事段々申上候へハ、御検見之節引高帳指上候様ニと被仰付候

一元右衛門様・久野右衛門様、水痛田畑并急御普請所も有之候ハ、御見分可被遊由ニ而御出被遊候間、来晦日・朔日之節此方へ御越可被遊由ニ候

一越後国蒲原郡麓村中村源八郎七月廿三日日付之書狀請取申候、是ハ渡辺団右衛門様御病中之義御死去之段々申来り候

右之通鯖江ニ而藤介様其外「」申上候

同廿五日

一鯖江に罷歸り候

同廿六日

一村々水入帳為持□□人足鯖江へ遣ス

同廿七日

預り申金子之事

合金九両也

右拙者組下船津村・国影村・西谷村去辰之御年貢金不足ニ付御断申上、拙者預り分ニ仕御皆済狀請取候処実正ニ御座候、何時成共御用次第二取立指上可申候、為其預り手形仍如件

元禄十四年巳八月廿八日
前谷村大庄屋
次郎左衛門 印

青山藤介殿

右之金子十月十六日ニ返納いたし預り手形消申候

同廿八日

一右之預り手形并辰御年貢小物成金・御口米代金共二度々上納仕候、藤助様御通帳共二源八ニ為持鯖江へ遣し申候

一前谷村清左衛門造酒運上金藤助様御手形、同村庄屋市兵衛請取、清左衛門御年貢通二付判形仕相渡申様ニ申付候処清左衛門方へ申候ハ、運上金之御手形市兵衛ニ相渡し申二付而ハ、市兵衛方へ証文相渡申様ニと望候ニ付而、市兵衛証文と申義何共難心得事ニ而、運上金之御手形此方へ廻シ不申候故、其段藤助様へ口上書を以申上候

同廿九日

一右拙者預り手形并御通帳とも二藤介様へ指上、御皆済狀織右衛門様御裏判ニ而拾九通引替□□源八今日罷歸り候

一重義・番田・田中々村・十楽、此四ヶ村田畑立毛改ニ罷越候

九月朔日

一元右衛門様・久野右衛門様、村々水損所御見分ニ御出被成候間、舟寄村迄罷出候様ニと善右衛門方へ被申越候ニ付、舟寄村へ参候へハ村々へ御出之跡ニ而、徳分田村ニ而右御兩人様御意得罷歸り

候

同二日

一右御兩人様谷畠村の重義・番田村・田中々村・十楽村田方旱損・畑方水損不残御見分被成、并十楽村石はね御指図被遊、田中々村出入之御普請所御見分被成、田中々村才兵衛方二而御昼休被成候

同三日

一右四ヶ村田方旱損・畑方水損之町反相改帳面申渡し候

同四日

一源八鯖江へ御用状為持遣ス

同五日

同六日

同七日

一村々庄屋長百姓と立合、村切ニ算用仕仮り通取返し、辰御年貢皆済状相渡し申候、并右四ヶ村日損・水損之帳面請取申候

同八日

覚

一旦那義明九日能州発足

「十一日舟寄村へ御着、其翌」

「郷村御巡見可被成哉之由」 「中野元右衛門・斎藤久野右衛門兩人之内老入、十日迄之内舟寄村へ罷越□節御廻り之村順可申」 「得其意候

一泊・昼休二而量之面替其外無用之仕度跡々も仕候由、自今以後少之義も村懸り費無之様ニ急度可被申付候、前々も其通ニ候得共今年者尚以堅被仰付候間、何二而も費成仕度一切可為無用候、此手紙披見之上名下二印形被致早々相廻シ、留方を重而相返シ可被申候、以上

巳九月八日

青山藤介印

舟寄村善右衛門殿

前谷村二郎左衛門殿

後山村平介殿

猪嶋村次兵衛殿

追而此状後山村の比嶋村へ遣し、猪嶋村へ相届候様ニ心得可被申候、以上

右御廻状舟寄村の参候二付、印形仕早々後山村へ遣し申候

一田中々村地内金津川縁ニ水囲堤之義二付、上番・中番・下番・玉木・高間五ヶ村の訴状指上候由二而、写書并御手紙藤介様□遣候を舟寄村の持参二付請取申候

同九日

一右四ヶ村田方旱損・畑方水損反歩帳持参二付請取申候

一 右上番・中番・下番・玉木・河間も指上候書付之写、并藤介様も被遣候御手紙共二田中々村へ遣し、返答書指上候様にと申付候

同十日

一 殿様能州御越被遊、今日舟寄村へ御着之由善右衛門方も被申越候
二 付、舟寄村へ参候へハ元右衛門様被仰渡候ハ、明十一日上新庄・重義・井江菟村二而御昼休被遊、横垣・清王夫も前谷村御泊り、十二日櫓・鎌谷・清滝・後山・川上も鳴鹿御昼休二而比嶋村御泊り、十三日猪嶋御泊り、十四日鯖江へ御入之由被仰渡候二付、宿へ罷帰り候て与下村々御巡見二明日御通り之段申触候

九月十一日

一本庄春日前迄罷出御内見得仕、夫も御案内申上番村渡り舟二而御越、十楽・田中々村・番田・重義庄屋長百姓渡り迄罷出候、井江菟村二郎右衛門方御入被遊御昼休被成候、国影・舟津・牛山・城・新家・西谷・赤尾庄や長百姓井江菟村へ罷出候、清王・西方寺・青野木・宮谷・清王村迄罷出候、笹岡村ハ御簾尾村へ罷出候、夫も自分方御入被遊候、伏木五太夫殿・辻三右衛門殿御迎として御出被成候

一朝倉平太左衛門方も預り置候探幽筆之山水之絵之義二付、返シ申様にと平太左衛門方も口上書を以条左衛門様迄申上候由二而江戸も被仰越候、如何様之子細二御座候哉と御尋二付口上書指上申候、

留書有

同十二日

一 前谷村も御出被遊大野郡へ御越被遊候付、人馬之義後山組も出し申候、昨十一日之昼次之人馬舟寄組之人馬直二返し申候

一村々田高・畑高書訊、町反付之帳指上候様二御直二被仰付候

一 操歌舞妃御法度之由、他領「」参間敷由、村々判形取候様

「」被仰付候

同十三日

同十四日

同十五日

同十六日

一 御巡見為御礼と鯖江へ参候、則最前被仰付候田高・畑高之訳反別帳指上申候、尤村々印判も不仕帳斗指上申二付留□無之候、其外御用共被仰聞候、殿様明後十八日南条郡へ御巡見二御出之由、同日元右衛門様・源五右衛門様大野郡へ御検見御出被成候而、夫も当郡へ月末二御越可被遊由二候

同十七日

一 鯖江も罷帰り候

同十八日

一金貳両銀四匁七分貳厘、清王村普請ふち銀取過を取返し申候、
重而重義村へ可相渡金子預り置申候

一牛山村二郎右衛門・八兵衛、稲場山之義二付口論仕候由、池上村
次左衛門断ニ参候二付、何とそ下ニ而扱相済候様ニと同村弥兵衛
ニ申付候

一小松薬屋次兵衛内談之事候而金津迄参候付、少之内金津へ参候様
ニと申越候二付、金津へ参様子承候

同十九日

一重義・番田・田中々村・十楽四ヶ村庄屋中へ申渡し候、田畑日損
・水損御改ニ付百姓別ニ持々田畑反別帳仕立、御検見之節指上帳
面ニ御引合候而、御検見可被遊由二候と申付候

一前谷村清左衛門田中村伊左衛門高出之義扱可申由二而、布目村彦
^(入脱)
兵衛・後山村茂右衛門我等方ニ而相談有之候

同廿日

九月廿一日

一態以使札致啓上候、先以久々不得御意御物遠ニ罷過候、弥御無
事ニ御座候哉承度存候、拙者義無別条罷有候、随而酉年御切手
米質物二取、御用ニ立置候銀子早々御返済可有之処、近年御不
仕合之由段々御断被仰聞候二付、貴様と我等間柄何角と申も氣

之毒ニ存相待罷有候処、当年ハ御返済可被成之由春中被仰越候
ニ付珍重ニ存候処、最前又先様〆相違之義被仰候二付、御返済
難被成之旨被仰聞候段何共不得其意候、其節我等方〆御断申置
候先此切手米質物之義、御国法も不存諸事不案内ニ付銀子御用
難立之由申達候得ハ、御切手米質物之義成程慥成事ニ候へハ、
何時ニ而も貴様〆御返済可被成之由段々御断ニ付任其意候処、
ケ様ニ永々御捨置候而今又先様之事何角被仰越候段難心得候条、
委細御報ニ可被仰下候、恐惶謹言

九月廿一日

土屋次郎左衛門 判

薬屋治平様

右之書状治平ニ相渡候二付、米百石之切手壹枚、銀貳貫五百目之
治平親三郎右衛門手形壹枚、我等方へ請取候ニ付書物式通預り申
候、此手形と引替可申由我等方〆仮り預り治平ニ相渡申候

同廿二日

同廿三日

一舟津村長右衛門と申者、清右衛門木戸口之道をふさぎ、往来成不
申由清右衛門方〆最前相断候二付、庄屋弥次兵衛・長百姓孫右衛
門ニ相尋候へハ、拾七年以前内検仕候節長右衛門・清右衛門兩人
之木戸道六歩村地之内引置申二付、兩人只今「――」長右衛門
此度清右衛門を通シ申問敷と□□色々之事を仕候由申二付、村法
之通吟味之上申付候而出入無之様ニ被致置候申聞候、其後庄屋長

百姓方も前々の通木戸道を明、往来^(仕候由カ)断^{□□}二付其通[□]置候処、又長右衛門方も右「」「ふさき往来成不申迷惑之段、清右衛門

方も断二付、舟津村へ参様子相尋、庄屋長百姓立合右之木戸道見

分仕候処、清右衛門「」「重一切出入成不申候様ニ長右衛門

仕置候二付、先年も有来道二候へハ明させ候而、申分候ハ、長右

衛門方も書付を以可申上候、若以書付不申上候ハ、重而御検見之

節御役人様へ御目ニ懸ケ、御「」「可仕候段長右衛門ニ慥ニ

相断候

一城村・同新家西谷村へ参候而立毛見申候

同廿四日

一鯖江御用ニ遣ス

同廿五日

同廿六日

一中野元右衛門様・安東源五右衛門様大野郡御検見御仕廻被成、明

廿七日ニ舟寄村迄御越可被成之由御廻状被遣候

一当御検見ニ付音信進物等少も仕間敷候、其外人馬遣方費無之様ニ

可仕之段々、藤介様も御書付被遣候而判形仕指上候、留書有

同廿七日

一笹岡・宮谷・青野木・西方寺・清王・赤尾・井江菰・横垣・国影

・牛山・舟津、右村々廻り御検見道筋見申候

同廿八日

一右御兩人様玄女村ニ御泊り之由

同廿九日

已之御年貢小物成之内初納金割

一金貳百四拾壹両 但米百石ニ壹貫百九拾匁宛

此米千貳百拾四石貳斗四升貳合

内 八百拾三石六斗三升 辰本途米

四百石六斗壹升貳合 同夫米

此割

金三両三分

前谷村

金貳拾貳両壹分

笹岡村

金貳拾五両三分

宮谷村

金貳拾七両三分

青野木村

内 拾五両

弥次兵衛

五両壹分

九右衛門

七両貳分

五十郎

金壹両

西方寺村

金九両貳分

清王村

金拾両壹分

赤尾村

金四両壹分

横垣村

金三拾三両貳分

井江葭村

金拾七両貳分

国影村

金八両三分

牛山村

金三両壹分

城村

金壹分

同新家

金三両三分

西谷村

金三拾貳両壹分

舟津村

金拾壹両壹分

十楽村

金拾貳両

田中々村

金七両

番田村

金七両

重義村

右者已御年貢小物成金之内、来十月十日切ニ取立上納仕候様こと申触候

一 小検見御兩人様後山村ニ御泊り

十月朔日

一 右小検見様方清滝・鎌谷・櫛・清間・伊井村を笹岡村・前谷村御

検見被成「」泊り被成候

同二日

一 宮谷・青野木・西方寺・清王・赤尾・横垣・井江葭御検見被成候

而、井江葭次郎右衛門方御泊り、昼休者よめおとし茶屋ニ而自分方を弁当持参申候

同三日

一 国影・牛山・舟津・城・新家・西谷・十楽「」御検見被成候、

御昼休舟津村弥次兵衛、御宿□十楽村与右衛門

一 舟津村長右衛門木戸道を塞清右衛門を通シ申間敷由論所、右御兩人様へ御目ニ懸候

一 銀子貯置其上買置仕間敷由之御書付村々村々判形(符)為致候証文を通、

并ニ御検見ニ付金銀米錢其外酒肴一切遣申間敷由、藤介様を御廻状被遣候ニ付与頭共判形仕候証文を通、式通共二元右衛門様へ相渡し候

同四日

一 田中々村・番田・重義御検見被成候而、上番村渡し舟を谷畠村へ

御越候而、宮前村ニ御泊り之由

一 田中々村へ村々庄屋中呼寄候而初納金之事申渡候

同五日

一 藤介様を御廻状ニ而被仰越候ハ、当已御年貢小物成金之内、初納金例年之通取立当十五日を限指上可申候、并当已小物成金増減有之候哉、書付指出し申様ニ被仰越候

同六日

同七日

一元右衛門様・源五右衛門様舟寄ニ被成御座候処、御急用有之由被仰越候ニ付舟寄村へ参候へハ、村々田畑上中下、屋敷壺反ニ付おろし何程と一村切ニ書付、一組帳壺冊ニ而村々庄屋判形仕、大庄屋加判ニ而早々指上可申之旨被仰越候間、御案文帳写取其通相認指上候様ニと被仰付候

十月八日

一石田方御検見衆塩野藤左衛門様・中川浅右衛門様・川崎庄左衛門様、北村御覧被成候而御通りニ候

同九日

一村々庄屋長百姓呼候而、おろし米之儀吟味いたし候処、罷歸り村中吟味之上書付明日指遣可申由ニ而何も被帰候

同十日

一村々田畑おろし米吟味之上書付持参被申ニ付、此義相違無之段何様之御吟味可被仰付も難斗候間、少も相違無之様ニ書付被指上候様ニと堅申渡候

一牛山村八兵衛初納金、次郎右衛門ニ相渡申事成間敷由断申ニ付、

何とて左様ニ申候哉、今迄之通ニ仕候様ニ段々申聞候得共承引不仕候

同十一日

一西谷村田畑検地紛失仕候付、田方ハ稲百束かりを壺反と用へ、畑方者麦種壺斗蒔を壺反と用へ来□候ニ付、其通去辰去村々検地〔

一吟味ニ付書付指上候処、田畑殊之外不足ニ候間、稲百束刈之所、麦種壺斗蒔之所式三ヶ所打立候而書付指上可申由

一新家地内九反壺畝四歩半荒畑□仕付候哉、吟味仕書付指上候様ニと被仰越候

右両村之義吟味仕、二三日之内ニ書□指上候様ニと藤介様〆当〔

一付ニ而御書付被遣候処、十一日暮六ツ時清間村〆持参仕候、右御書付并善右衛門送状有

一組下村々田畑おろし米之下帳、□右衛門為持舟寄村へ遣し、元右衛門様・源五右衛門様内見ニ入申候

同十二日

一国影村藤兵衛を連西谷村へ参、右被仰越候田畑之内試ニ打立申品申聞、庄屋長百姓案内ニ而打立歩詰仕候、并ニ田畑上中下改之義古帳を以稲刈・麦種寄立証文取申候

同十三日

一新家荒畑九反、畝四歩半之事、段々吟味仕証文取申二付、留書有
一西谷村田方上中下二而六ヶ所、畑方上中下二而六ヶ所打立申二付、
歩詰証文取申二付、留書有、田畑共二上中下之訳証文を取、留書
有

右舟津村不作場帳面之義、三年以前渡辺団右衛門殿・斎藤久野右
衛門殿御検見二御出、委細御改被成帳面被仰付候、当年も右之場
所御見分被成候通不残不作仕候処少も紛無御座、則帳面之写為相
認指上申候、以上

巳十月

前谷村大庄屋
次郎左衛門 印

中野元右衛門殿

安藤源五右衛門殿

右卯年不作場御改之写、舟津村庄屋長百姓判形二而指上候奥書二
我等印形仕、右兩人へ指上候覚書右之通二候

右者舟津村百姓之内拾壹人、去辰十月十五日之夜出火二而遭類火、
一兩日以前二稲野辺に取入候而こきすり不仕内二火事出来候二付、
稲・雑石・諸道具・農具等迄不残焼失仕候二付、其年にお夫食・作
食も無御座、農具・種物等迄手支仕候二付、当作村並に殊之外悪
敷、右之百姓何も当年者及潰申義紛無御座候間、則当作悪敷分帳
面二記指上申候、右之百姓相続仕候様ニ奉願候、以上

巳十月

次郎左衛門 印

中野元右衛門殿

安藤源五右衛門殿

右舟津村火事人之持高百五拾石四斗七合之内、悪作之反別帳百三
石四斗と帳面二記、拙者判形二而右御兩人様へ指上候、覚書右之
通二候

覚

拙者組下村々田畑上中下おろし米御尋二付、田畑共二百姓内検、
壹反歩之おろし米を以帳面二記指上申候、以上

巳十月

次郎左衛門 印

中野元右衛門殿

安藤源五右衛門殿

右ハおろし米帳右御兩人様へ指上候二付、右之証文別紙二指上候、
古検之壹反歩と内検之壹反とハ相違有之二付、おろし米□違申故、
内検壹反歩之おろし米御改として右之証文指上ル、覚書□^(有カ)

一三国にお通舟寄へ参候而御兩人様段々「一」右之通書付判形仕指
上候□、留書有

一能州にお尾花園右衛門様・杉山織右衛門様御帰、金津二御泊り之由
二候間舟寄村にお平助同道二而金津へ参候

一右御兩人様へ宮谷・横垣・重義・番田・田中々・十楽^(マ)

同十四日

一園右衛門様・織右衛門様二金津二而御意得罷帰□^(候)

同十五日

一金壹分 牛山村八兵衛已御年貢金預り小手形次兵衛ニ渡ス

一合金貳百貳拾五兩三分 十月十五日取立

一金九兩 辰不足金別ニ有

一金拾兩 自分寄金有

右之通初納金今日村々〆請取申候

同十六日

一金貳百貳拾五兩貳分、已御年貢金之内藤介様へ指上通ニ付請取申候

一金九兩、辰御年貢不足ニ藤介様へ指上候而、我等預り手形請返し消申候

一西谷村田畑之内打立・歩詰之段々藤介様へ申上、則西谷村証文指上申候、并田畑共ニ上中下之付訳証文共ニ式通指上申候

一新家荒畑九反壹畝四步半荒畑ニ而指置候由、新家之証文藤介様へ指上候

一辰之御口米壹石ニ付六拾三匁ツ、之直段ニ而金子指上申由、拙者判形仕指上候

一右者御年貢貳百貳拾五兩貳分包賃銀相渡し不申候

一右辰御年貢不足金九兩之包賃銀者、「一」之掛屋仁兵衛ニ相渡し申ニ付包賃相済申候

右之通今日鯖江へ参候而御用相済候へハ、早々罷歸り候様ニと被仰付候、次ニ新家善太夫□籠者之事ニ候へハ、立歸り候て徘徊不

仕候様ニと被仰付候

一田中々村返答早々為指上候様ニと被仰付候

十月十七日

□鯖江〆罷歸り候

同十八日

一銀七匁五分 包丁壹丁・行灯壹ツ・たはこ盆払代平助方へ相渡し候

但右三色買本代銀拾七匁七分之中、本銀ニ而我等方〆相渡し申答之由平助申ニ付、帳面相改可申由申候

一銀六匁五分 新五兵衛已普請帳写ニ参候日用銀
一金壹兩壹分銀四匁三厘 後山組ツノ春御廻米戻り銀之由、布目

彦兵衛〆請取置候付平助方〆相渡し申候
ノ金壹兩貳分銀三匁三厘平助へ渡ス

同廿日

一村々不足金今日請取申候

一田中々村水围出入之返答持参候ニ付而、明廿一日鯖江へ持参候様ニと申付、則藤助様へ我等口上書指添申候

同廿一日

同廿二日

同廿三日

同廿四日

一 田中々村返答書鯖江持参候へハ、文□□誤り有之候間書直し指上候様ニと被仰付御返し被成候

同廿五日

一 (松平吉品・福井藩主)
兵部様金津へ御成被遊候由

同廿六日

一 重義・番田・田中々村・十楽・舟津、此五ヶ村庄屋長百姓印判、来廿八日ニ鯖江御陣屋迄参候様ニと元右衛門様・源五右衛門様御廻状ニ而被仰越候を、後山村へ持参ニ付右村々へ配付を以申遣し□_(候)、但當已之引高之儀ニ付御用之由ニ候、御廻状有

同廿七日

一 兵部様御成被遊候、御悦ニ金津へ参候

同廿八日

同廿九日

一 右五ヶ村庄屋長百姓耆村へ式人ツ、昨廿八日ニ鯖江へ参候へハ、当立毛御検見引高ニ判形御取被遊候而何れも罷歸候由断ニ候

一 田中々村川向五ヶ村へ申懸候出入返答書、廿五日ニ鯖江へ指上候由断ニ候

同卅日

一 兵部様金津へ川御船福居へ御歸り被遊候

十一月朔日

同二日

同三日

同四日

十一月五日

同六日

□_(二) 国影村庄屋当年次右衛門相勤、只今へ来午ノ年藤兵衛庄屋番ニ而相勤申候、長百姓・御用判人ハ次右衛門・茂左衛門兩人相勤可申候、其外村ニ而之義今迄之通ニ而、新右衛門・次左衛門も罷出相勤可申之由断ニ候

同七日

同八日

一 京都愛宕山御初尾金壹分、御使僧寿元老ニ相渡ス、与下村々へ可相渡御札・扇子共ニ例年之通請取置候

一 黒毛式才馬壹疋
番田村
馬主門三郎

板取口通り手形奥判いたし候

同九日

同十日

同十一日

同十二日

一被仰渡義有之候間、明十三日鯖江へ着仕候様ニ参候様ニと藤助様御手紙被遣候付、舟寄村へ直ニ持参仕候

同十三日

一当郡与頭中同道ニ而鯖江へ参候

同十四日

一御代官所与頭中不残、并横越村助右衛門於御陣屋御料理被下候

一殿様十六日江戸御発駕可被遊被仰聞候

一遠方へ御見送りニ罷出候事無用「」猪嶋村次兵衛ニ被仰聞候

由承候ニ付、坂井郡庄屋中御見送り之事止申候

一当十七日へ大割可仕由何も被申ニ付、宮^(谷)義太夫二十七日へ大割

立合ニ罷出候様ニと申遣し候

同十五日

一式拾四ヶ条之御仕置書御陣屋へ御出シ被遊、此内指支申義も有之

候ハ、何れも相談を以重而書付を以申上候様ニと被仰付候

一村々田畑上中下反別并役割高半・屋半之割之義御尋之御書付御出シ被遊候ニ付、此義村毎二段々違申義ニ御座候間、村別ニ吟味不仕候而ハ難相知候、帳面仕立様之案紙御出し候ハ、吟味仕指上可申由申上候

同十六日

一殿様江戸御発駕ニ付、何れも大庄屋共ハ松森迄御見送りニ参御暇申上罷歸り候、大野郡・坂井郡村々庄屋御見送りニ不罷出候

一宮谷村義太夫大割立合ニ罷越候

已年御免状請取候

一取米拾五石八斗六升五合

壹ツ壹分四厘

前谷村

一取米百五石八斗五升四合

壹ツ七分

笹岡村

一取米百五石七斗六升四合

式ツ貳分壹厘

宮谷村

一取米百拾五石六斗九升五合

壹ツ八分三厘

青野木村

内

(マ、)

一取米三石五斗九升七合

六分六厘

西方寺村

一取米四拾壹石四斗八升六合

式ツ四分壹厘

清王村

一取米四拾五石貳斗七升

壹ツ五分四厘

赤尾村

一取米拾五石六斗六升八合

壹ツ貳分六厘

横垣村

一取米百四拾四石貳斗六升七合

壹ツ九分八厘

井江葭村

一取米七拾貳石六斗八升八合 国影村
 壹ツ八分三厘
 一取米三拾六石壹斗八合 牛山村
 壹ツ五分貳厘
 一取米拾三石九斗六升四合 城村
 壹ツ壹分壹厘
 一取米八斗壹合 同新家
 壹ツ貳分五厘
 一取米拾石壹斗七升五合 西谷村
 五分壹厘
 一取米百拾貳石壹斗五合 舟津村
 貳ツ四厘
 一取米貳拾壹石五斗三升貳合 十楽村
 高 壹ツ壹分六厘
 一取米貳拾三石八斗貳升九合 田中々村
 高 九分七厘
 一取米六石七斗八升四合 番田村
 高 八分四厘
 一取米拾壹石貳斗六升九合 重義村
 高 六分壹厘
 取米合九百石七斗貳升壹合
 平均 高壹ツ壹分貳厘三毛
 右之通御免状拾八通請取申候

十一月十七日

一鯖江仙入方ニ而大割仕懸り候

同十八日

一当十五日ニ被仰出候貳拾四ヶ条之御書付「」指支申義有之二

付段々御断申上候得とも、村々々組々々少々支申義有之候得共被仰出御仕置二候へハ、相守候様ニと藤介様被仰聞候

同十九日

一南条郡・今立郡立合ニ罷出「」此度御免状被下候処御免大分上り迷惑仕候、此水入米売買下直二候へハ、当御直段之水入米相場直段御極被下候様、并来春御廻米ニ可成米拾ヶ壹ならてハ無之候間、御廻米「」免御訴訟申度候間、組為惣代と組之内ニ而庄屋貳三人呼候而御訴訟申度由、何れも被申二付、自分組々井江菎村義右衛門・国影村藤兵衛鯖江へ被参候様ニと申遣候

同廿日

一村々田畑上中下吟味仕候ハ、相知可申哉と御尋二付、村々相尋重而以書付相知可申哉、相知申間敷候哉、両用之内申上候様ニと被仰付候

同廿一日

一井江菎村義右衛門・国影村藤兵衛、其外組々々庄屋代参候二付御訴訟之義相談被申候

同廿二日

同廿三日

一 右御訴訟之書付出来ニ付、大庄屋并村々庄屋代同道ニ而御陣屋へ指上候処、御役人衆中御披見被成候処、当御取ケ上り候て何共迷惑仕候由、且又当国之内拾耆人之御地頭様方ハ当御取ケ下り候処、御代官斗上り候て迷惑之由、扨御直段之義、御廻米之義書付指上候処何れも御役人様方被仰聞候ハ、ケ様之書付江戸へ指上候ハ、御全義可被遊候旨被仰聞候ニ付、御断を申上申誤り之由証文指上、右書付書直し、御直段之事御廻米之事斗を申上候、右之留書有

同廿四日

一大割并御訴訟之事相済申ニ付、御陣屋ニ而御暇乞罷歸り候
一 当御取立之段々目録被遣請取申候

一米壹石ニ付五拾八匁七分九厘 一塩壹石式「一」四厘
此御直段代り申候

十一月廿五日

一 鯖江^お今日罷歸り候

同廿六日

同廿七日

同廿八日

同廿九日

一 当御取立一村之目録仕出し申候

一 丸岡領為国村助左衛門・東里丸岡村与次兵衛・竹田口あめや源兵衛・谷町木葉屋忠左衛門・富多町新五兵衛・久兵衛、右六人去廿五日ニ住所立退行方知不申候、御代官所ニ隠れ居候義も可有之候間、吟味仕見出し候ハ、捕置早々鯖江へ御注進申上候様ニと、右之御廻状并六人之事書園右衛門様^お被遣候処、後山村^お村次ニ而参候ニ付、与下村々被遣候事書ニ添状仕遣し申候、御廻状有

十二月朔日

已年小物成金之内残金日切申付候

一金五兩三分銀三匁九分 前谷村

内

四兩 十二月十日切

壹兩三分 同廿日切

一金拾四兩三分銀拾匁八分八厘 笹岡村

内

拾兩 十二月十日切

五兩 同廿日切

一金貳兩三分銀壹匁七分四厘 宮谷村

十二月十日切

一金五兩銀拾匁七分四厘

内

青野木村
弥次兵衛

三兩貳分 十二月十日切

壹兩三分	同廿日切		貳兩貳分	同廿日切	
一金壹兩壹分銀拾三匁八分	十二月十日切	同村 五十郎	一金五兩銀五匁四分七厘	内	国影村
一金壹兩銀拾匁壹分	十二月十日切	同村 九右衛門	三兩壹分	十二月十日切	
一金貳兩壹分銀六匁四分三厘	十二月十日切	西方寺村	壹兩三分	同廿日切	
内			内		牛山村
壹兩貳分	十二月十日切		四兩	十二月十日切	
三分	同廿日切		壹兩三分	同廿日切	
一金壹兩銀貳匁七分六厘	十二月十日切	清王村	一金七兩三分銀拾匁九分五厘	内	西谷村
一金七兩銀五匁壹分六厘	十二月十日切	赤尾村	五兩貳分	十二月十日切	
内			貳兩貳分	同廿日切	舟津村
四兩貳分	十二月十日切		一金八兩銀四匁三分五厘	内	
貳兩貳分	同廿日切	横垣村	五兩貳分	十二月十日切	
一金四兩銀七匁壹分四厘			貳兩貳分	同廿日切	
内			一金三拾壹兩壹分銀貳匁九分八厘	内	十楽村
貳兩三分	十二月十日切		貳拾兩	十二月十日切	
壹兩壹分	同廿日切		拾壹兩壹分	同廿日切	
一金七兩壹分銀拾四匁壹厘		井江葭村	一金三拾八兩三分銀六匁九□		田中々村
内					
五兩	十二月十日切				

内	式拾六兩	十二月十日切	
	拾貳兩三分	同廿日切	
内	一金三拾貳兩貳分銀拾四匁六分貳厘		番田村
内	貳拾貳兩	十二月十日切	
	拾兩三分	同廿日切	
	一金三拾貳兩銀四匁三分貳厘		重義村
内	貳拾壹兩	十二月十日切	
	拾壹兩	同廿日切	
	一金拾六兩壹分銀拾三匁八分		城村
内	拾貳兩	十二月十日切	
	四兩貳分	同廿日切	
	一金壹兩三分銀拾壹匁五分四厘		新家
内	壹兩貳分	十二月十日切	
	貳分	同廿日切	
	合金 (マヽ)		
内		十二月十日切	

同廿日切

右日切之通不足無之様ニと庄屋長百姓中堅申渡候

十二月二日

借主清王村庄屋長百姓
貸主金津新屋宗兵衛

一金九兩

此質山三ヶ所、内壹ヶ所上平山主権兵衛、壹ヶ所岡宗山主次兵衛、壹ヶ所岡宗山主久右衛門、右之金子来午六月^〆亥六月迄六年符、壹ヶ年壹兩貳分本捨之証文ニ自分奥判之証文相渡し申候

一庄屋長百姓寄合大割并組割共ニ無出入相済申候

一已年御免状相渡し并当御取立之中勘定仕郷藏納、御口米、庄屋預り小物成銀仮直段ニ而銀詰仕書付村々へ相渡し申候、^(貳)拾四ヶ条御仕置書委細申渡庄屋^(長)□百姓判形を取、尤村々ニ而小百姓□急度被申渡候様ニと申聞候

一田畑反別上中下村々ニ而吟味仕候ハ、相知可申候哉と相尋候処、古検帳ニ引合申義ハ難成候、只今百姓持々之田畑ニ而申上候儀者知可申由何れも被申候

一口留御番所米・大豆出申義者、清王村権兵衛細呂木へ参相尋申様ニと申渡し候

十二月三日

同四日

一下女矢地村はつ、来午年を戌年迄五年季給金三分、同人娘ふく同年季二而給金壹分、外貸掛金貳分証文相究、金合壹両貳分相渡ス

同五日

一 櫛村地内二為国村助左衛門自害仕罷有候由平助方を申来候二付、我等も罷出候得ハ死切不申倒伏罷有候二付、村人并平助何角相尋申義承候、櫛村を鯖江へ早々御注進ニ参候

同六日

一 右之助左衛門昨昼七ツ下りニ相果申由、又櫛村を鯖江へ御注進ニ参候、則今日小林郷助様御越被成、丸岡御役人浅海孫大夫殿櫛村迄御越候而助左衛門死骸丸岡へ御渡し被成、則右孫大夫殿を手形御取被成候、其場へ我等も罷出候

一 十楽村地内金津川宮前村を掘替申度由二而、其場所絵図ニ仕候而宮前村庄屋中持参二候、則舟寄村善右衛門方を書状を添十楽村へ相尋候様ニと申越候、最前織右衛門様も此義十楽村へ相尋申様ニと被仰付候

同七日

貸主米屋太郎左衛門
借主国影村次右衛門
一米貳石七斗六升

此質高貳拾石、午十月迄利足四割、右証文ニ自分奥判いたし

相渡し申候

一金拾三両 十楽村

一金拾六両 田中々村

右両村小物成金之内御指延被下候様ニと奉願候

一金拾三両 重義村

右同断

一金拾三両 番田村

右同断

同八日

一 銀壹匁三分四厘 横垣村指引残預り

一 油屋武兵衛田中々村ニ罷有候二付、元禄五年申二月廿二日権瀬市

野々村仁右衛門請状壹通、同日付ニ而丸岡新町作兵衛請証文壹通、

右式通共二田中村徳右衛門ニ相渡ス

一番田村長百姓之義、来午春を弥左衛門・門三郎両人として被相勤

可然候、其後之義ハ其節ニ至而相談可有候、先来年ハ右両人ニ可

被相究由申聞候

同九日

已暮上納金包賃之覚

一 銀貳匁八分五厘 前谷村

一 銀拾匁匁壹分八厘 笹岡村

一銀八匁五分五厘	宮谷村
一銀六匁八厘	弥次兵衛
一銀貳匁七分	五十郎
一銀壹匁九分五厘	九右衛門
一銀九分八厘	西方寺村
一銀三匁壹分五厘	清王村
一銀五匁壹分八厘	赤尾村
一銀貳匁四分八厘	横垣村
一銀拾貳匁三分	井江葭村
一銀六匁七分五厘	国影村
一銀四匁三分五厘	牛山村
一銀三匁五分三厘	西谷村
一銀拾貳匁八厘 (マヽ)	舟津村
一銀	十楽村
一銀	田中々村
一銀	番田村
一銀	重義村
一銀	城村
一銀	新家
銀合	

右当已小物成金年内取立可申分之包賃銀如此二候

一織右衛門様・園右衛門様、来春可被仰付御普請所為見分と昨八日

〆南条郡・今立郡、夫〆坂井郡へ御越可有候間、御普請所願候村々へ申渡委細書付取置申様ニと被仰越候、御廻状有之候

同十日

一重義村太郎兵衛・孫四郎親子出入之事最前双方〆断申二付、中番村利兵衛などを頼扱候得共相済不申候之由、庄屋中御物語二候

一笹岡村弥五兵衛・作兵衛山出入有之由断申二付、庄屋宗左衛門作兵衛方之申分承候而、何とそ下二而相済候様ニと申聞候

一重義六兵衛十一月十四日之日付状江戸〆遣し候を請取申候、来春迄江戸ニ罷有度由申越候二付、六兵衛其ま、罷有候而も支申義も無之候哉両庄屋へ相尋候処、何之構無之由庄屋中被申候

同十一日

一細呂木御口留米雜穀、加州へ出申候哉と清王権兵衛聞ニ遣し候へハ、権兵衛方〆申越候ハ、大豆・油種ハ御留候得共、其外米雜穀御留無之由申越候二付、其通鯖江へ書付指上候、留書有

一細呂木村太郎左衛門、西方寺村市郎兵衛とおろし米去々年〆之出入之義、金津三田村六右衛門殿書状太郎左衛門持参申二付、取込罷有候間御返事不申上候、近日罷出様子可申上由口上二申上候

同十二日

一金八拾両銀三匁貳厘

内

六拾五兩貳分

御年貢金上納

九兩貳分銀拾貳匁壹分九厘

大割銀

此銀五百八拾貳匁壹分九厘

四兩三分銀五匁八分三厘

内割銀

此銀貳百九拾匁八分三厘

右之金子請取明日鯖江指上、御手形を相渡し可申候、以上

源八郎(印)

右八十五日ニ罷歸り指引相済申候

一金四拾四兩貳分半切

取立有合

内

貳拾四兩

御年貢金

壹兩壹分八匁三分壹厘

村々々包賃

貳分

御初尾金

壹兩

権右衛門

貳分

弘方有

残
ノ貳拾七兩壹分八匁三分壹厘

拾七兩壹分

十二月十三日

一舟津村庄屋之義、弥次兵衛相勤候事難成候由段々度々断申ニ付、
長百姓之内として代り庄屋相立申様ニと度々申候処、代り庄屋立

不申候ニ付、此跡庄屋給米壹表へり申由ニ候へハ、右之通之庄屋
給ニ仕候而も弥次兵衛を庄屋ニ仕候而成共、庄屋之事埒明申様ニ
と申聞候

同十四日

一舟津村火事人為御救と引高被仰付候ニ付、此引高之分火事人斗へ
引可申候哉と相尋申ニ付、火事人高之内ニ而引申様ニと可仕候、
其上最前水損帳上ケ「」候へハ、其帳面次第ニ銘々引申様ニ
と申聞候

一高七石壹斗五升

牛山村八兵衛

此取壹石壹斗貳升貳合六勺

一米三斗五升七合五勺

夫米

此銀貳拾壹匁七厘

一銀八分貳厘

糠藁代

一銀貳匁七分

山手銀

一銀壹匁七厘

御蔵前入用

一銀貳匁

年内返納

一銀貳匁七分八厘

割銀・与頭給共

一銀四匁貳分

村割銀

小以三拾五匁壹分四厘

右之通八兵衛書付出し候由ニ付銀子預り置申候

同十五日

一米五表

舟津村

内

三表

丸屋市右衛門

式表

松岡や甚左衛門

一米八表

国影村

内

四表

麦屋吉左衛門

四表

松岡や甚左衛門

一米式表

西谷村

麦屋吉左衛門

一米式表

同村

松岡屋

同十六日

一高式百五拾五石七斗八合

北村

内壺斗式升

郷藏敷引

三拾五石三斗式升五合

水損一作引

残式百式拾石式斗六升三合

此取拾八石九斗式升式合 有高八分五厘九毛

一金六拾五両式分

已御年貢金通二付

一金拾四両式分銀三匁四厘

已暮 大割銀・内割銀

鯖江彦五郎ニ相渡シ、手形有

右ハ源八十三日ニ鯖江へ参候而十五日ニ罷歸り、「」違御手形共請取申候

已御直段米壺石二付

銀五拾九匁七分四厘

同塩壺石二付

銀

十二月十七日

同十八日

一村々御普請所来午春奉願候分相改、帳面指上候様ニと被仰付候ニ付相改申候

同十九日

同廿日

一笹岡村弥五兵衛・同村弟作兵衛山出入之義ニ付訴状持参申候処、宗左衛門村ニ而扱申度由申ニ付訴状返し申候

同廿一日

一織右衛門様・園右衛門様来春御ふしん所御見分ニ御出被成候ニ付、後山村へ参候而御意得罷歸り候

同廿二日

一銀拾四匁五分 十楽村与右衛門ゝ入

御巡見之時桶道具払代銀

一織右衛門様・園右衛門様来午春奉願候村々御普請所為御見分と御越候、御普請所願へ笹岡村川除切口三ヶ所、宮谷村掛樋壺ヶ所、重義村水溜堤壺ヶ所、伏樋壺ヶ所、番^(田)村水溜堤壺ヶ所、田中々村掛樋式ヶ所、十楽村石はね壺ヶ所、城村塩浜壺ヶ所「」通願上候

同廿三日

一右御兩人様舟寄村へ御越候二付

一人足四人 笹岡村 一人足式^(人) □谷村

一同三人 重義村 一同三人 □田村

一同四人 田中々村 拾六人

一笹岡村市郎兵衛訴申候ハ、同村市右衛門「」余質物二取、

代銀・代米貸置候処埒明不申候由断申来り候

同廿四日

一米三石六斗八升 貸主金津米屋太左衛門
借主国影村茂左衛門
次右衛門

此質高式拾石

午十月切四割之証文添判致候

一高拾石 田中々村 藤右衛門
同村新左衛門□

一高式拾石式斗五升 義兵衛

右□義兵衛江戸ゝ罷歸り候由断ニ參候

一高拾八石 同村宗左衛門子 甚左衛門

右三人何之断不申江戸へ參候、呼遣し申度候得共来春之事ニ仕度候由、庄屋長兵衛段々断申候

一金壹分半切 西谷村ゝ預り

内

五匁式分七厘 辰春御廻米入用追割

三匁八厘 巳暮包ちん

残拾四匁壹分五厘 預り有

此銀子通ニ付渡 十二月廿五日

同廿五日

一当廿三日ゝ村々蔵印ニ源八罷出候而、今日仕廻罷歸り候

同廿六日

一金百拾四匁三分 巳御年貢金

一金式兩銀壹匁七分三厘 包ちん銀払

一金式分銀式匁九分 彦五郎二払

□金三分銀三分 木屋払

□金式分 八万屋払

一金三分 田中屋払

一金三兩 大柳太兵衛殿

一金貳分

小かい物代

ノ百貳拾貳両三分

右之金子預り申候、鯖江其外方々へ払手形を以さん用可仕候
右之払方指引相済申候

源八郎（印）

外

一金壹分 宝性院御初尾金源八二渡

一金四百八拾五両壹分銀壹分六厘 万金方本途外

内四百五両三分 今日迄上納金

七拾九両貳分 此金来午春取立指上可申分

右之通園右衛門様手紙を以申上候

一田畑反別位付御尋之書付壹通最前指上候処、文談悪敷由二而御
返し二付、書直シ園右衛門様へ指上候、留書有

一口留米雜穀他国へ出し申義聞合之書付壹通、是も最前指上候処

文談悪敷御返し被成候二付書直シ指上候、留書有

一式拾四ヶ条御仕置書、村々判形取指上候、留書有

一郷藏米納預り手形拾七通指上候、留書有、外村々指出し有

一御口米預り手形拾七通指上候、留書有

右之通廿七日ニ源八鯖江へ持参仕候

十二月廿七日

一笹岡村弥五兵衛弟作兵衛と出入之事、何とそ和談仕相済申様二と

右両人庄屋長百姓へ申聞候得共相済不申候間、訴状「」願
申二付手紙指添、弥五兵衛「」持参為致候

一笹岡村市郎兵衛方へ同村市右衛門「」持山共二質物二書入、
代銀・代米卯年請^{（取候）}□□而其以後元利之内少も入不申候二付、最前

市郎兵衛方^も断申二付、市右衛門・村人共二呼寄候而市郎兵衛方
へ断を申、下二而相済候様二と申聞候得共、何之断もなく捨置候
由、市郎兵衛方^も「」指出し候二付鯖江へ遣し申候

右両人訴状鯖江持参申「」拾八村之内残拾七村へも少々出
入「」村人・拙者など相談二而異見申候へハ、下二而和談

□相済申候処、笹岡村之者ハ理非分明二相知申義、下二而ハ相済
不申当年も度々御陣屋へ罷出候、此出入来春御聞被遊、非道之者
ハ急度被仰付被下候様二と園右衛門様手紙指上候

同廿八日

一其組下村々例年之通宗門帳来午ノ二月十五日限可被指出候、尤
人別増減・寺印等無相違入念候様二可被申渡候、右帳面宛所者
鯖江御役所と相認候様二可被申付候、以上

十二月廿八日

小林郷助

坂井郡大庄屋中

一右笹岡村市郎兵衛・弥五兵衛訴状鯖江へ持参仕候処、園右衛門様
^も御手紙被添御返し被成候ハ、此出入下二而何とそ済可申事之様
二候間、内々二而相済申様二仕、夫とても相済不申候ハ、春中訴

状指上候様ニと被仰越、御訴状共ニ御返シ被成候ニ付、其段右両人ニ申聞訴状手前ニ預り置申候

一井江葭村善兵衛と申者持高預ケ申ニ付、義右衛門方も内意断申候

同廿九日

一金五両

舟津村借主 弥次兵衛
孫右衛門

此質高拾石、貸主二面村喜右衛門

午十月切利足式割、証文奥判仕候

「」 鯖江も罷歸候処算用指引「」 引相済、諸手形不残請取申候

一園右衛門様も諸書物御請取之由、并当小物成金大分之残り候、来春ハ早々も取立相済申様ニと被仰越候御手紙有、来春年始御札ニ御陣屋へ参候事無用之由、源八口上ニ被仰越候

一源五右衛門様当廿五日ニ鯖江へ江戸も御歸之由、巳年旱損・水損田畑耆人別之帳仕立、指上候様ニと案紙被遣有之候、右之帳来正月廿日切ニ指上候様ニと被仰越候

一重義村上乘六兵衛江戸も重義五右衛門方へ状を遣し候を源五右衛門様も被遣候、其内金子有之由ニ候故、同晦日ニ喜八ニ為持重義村五右衛門方へ遣し候

一加州小松薬屋次平方も預り置候切手米百石西尾与三右衛門殿裏判之手形、出村山城屋おきよ迄遣し候様ニと次平被申越候ニ付、山城屋方へ為持遣し候

一舟津村清右衛門来午年納庄屋願書付指上候を請取置候

十二月晦日

一高式拾石

かり主番田村 兵右衛門
又左衛門

代金三両、貸主金津新屋惣兵衛、午ノ五月切耆割式分、奥判

いたし候